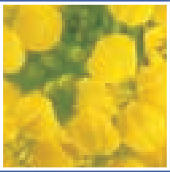
Quality is more than a word

ESPEC

# Corporate Social Responsibility

REPORT 2008



# さまざまな環境を創り、モノづくりに活かす

## 会社概要

2008年3月31日現在

| | |
|---|---|
| 社名 | エスペック株式会社 |
| 英文社名 | ESPEC CORP. |
| 創業 | 1947年7月25日 |
| 設立 | 1954年1月13日 |
| 資本金 | 6,884百万円 |
| 証券市場 | 東証・大証一部上場<br>（証券コード:6859） |
| 従業員数 | 1,337名（連結）、649名（単独） |
| URL | http://www.espec.co.jp/ |

## 主な事業所

2008年4月1日現在

| | |
|---|---|
| 本社 | 大阪市北区天神橋3丁目5番6号 |
| 東京支社 | 東京都港区港南2丁目15番1号<br>品川インターシティA棟12階 |
| 営業拠点 | 仙台・さいたま・東京・横浜<br>名古屋・大阪・広島・福岡 |
| 工場その他事業所 | 福知山・宇都宮・神戸・横浜・久御山 |
| 子会社および関係会社 | 国内5社、海外10社（詳細はP6参照） |

## 営業概況

2008年3月期

| | 連結 | 単独 |
|---|---|---|
| 売上高 | 40,918百万円 | 27,395百万円 |
| 営業利益 | 3,129百万円 | 1,926百万円 |
| 経常利益 | 2,971百万円 | 2,585百万円 |
| 当期純利益 | 1,216百万円 | 654百万円 |
| 総資産 | 43,810百万円 | 35,375百万円 |
| 純資産 | 31,127百万円 | 26,385百万円 |

企業情報や業績についての詳細な内容については、
当社ホームページ内の「企業情報」「投資家情報」をご覧ください。

## 編集方針

●本CSRレポートは、企業の社会的責任に関わる説明責任の重要性の認識に基づいて、制作・発行するものです。

●報告をまとめるにあたり、「ステークホルダーのみなさまの関心」と「事業活動としての重要性」の観点から内容を選択しました。特に重要と考える取組みは特集に取りあげ、それぞれの責任者が報告を行っています。各論パートも重点的課題と新たな取組みを中心に構成し、導入文では基本的な考え方を紹介しています。

●本誌は網羅性の観点から、①経営・マネジメント、②社会性パフォーマンス、③環境パフォーマンスの3部構成としています。社会性パフォーマンスではステークホルダーの包含性という観点から、当社の重要なステークホルダー（お客さま/従業員/取引先さま/株主・投資家さま/地域社会）ごとの報告としています。環境パフォーマンスでは、環境に関する各種基礎的なデータに加え、グリーンプロダクト・グリーンプロセス・グリーンマインド・グリーンアクションの4つの側面から当社の取組みの全体像をご紹介しています。

●本誌中の（WEB）は、当社ホームページ上で関連情報を開示している旨を示しています。

☞ エスペックホームページ：http://www.espec.co.jp/

●経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料でご覧いただけます。

## 対象範囲

**【事業所の対象範囲】**
国内エスペックグループの主要な事業所を対象としています。ただし、全項目すべてについて、カバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

**【事業の範囲】**
エスペックの事業は環境試験事業（環境試験器、アフターサービス、受託試験等）、電子デバイス装置事業（FPD装置、半導体装置）、その他事業（環境エンジニアリング、新規事業）であり、これらの事業活動全般について報告しています。

**【対象期間】**
主に2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）を対象期間とし、過去より継続して実施してきた内容および直近の内容についても時期を記述した上で、掲載しています。

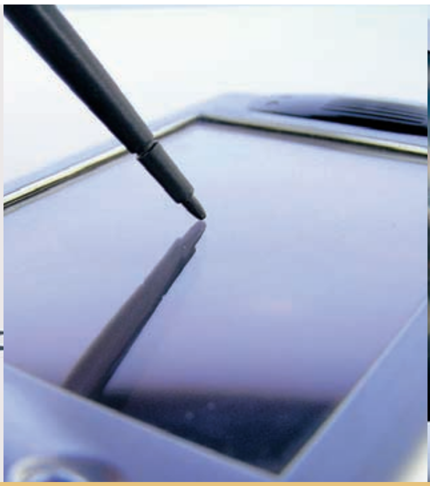
## 準拠したガイドラインなど

・環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」
・環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
・GRI（Global Reporting Initiative）
「GRIガイドライン第3版（Sustainability Reporting Guidelines version 3.0）」

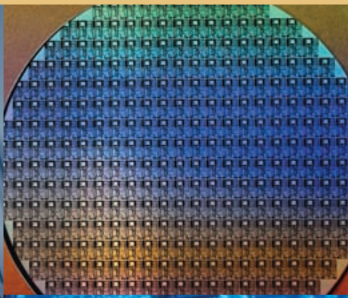
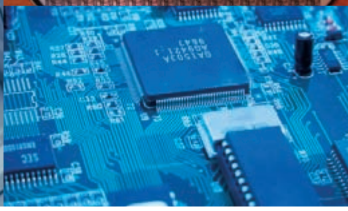
## 発行時期

毎年6月末頃（年1回）発行

# ——社会の安全・安心づくりは、エスペックから



たとえば、テレビ、エアコンなどの家電製品、携帯電話やパソコンなどの情報機器、さらには自動車や航空機などは、今や私たちの生活になくてはならない存在です。これらの工業製品は温湿度や振動、圧力といった環境に大きな影響を受けます。人々が安心して使えるようにするには、実際に使用される環境で機器がどのように影響を受けるのかを事前にテストしておくことが必要になります。そこで活躍するのが、人工的にさまざまな環境を自在に再現する、エスペックならではの「環境創造技術」。エスペックはこの「環境創造技術」を通して、人々の暮らしと社会の「安全」「安心」づくりに貢献しています。

## CONTENTS


| | | |
|---|---|---|
| トップメッセージ | | 3 |
| What's ESPEC | 企業プロフィール | 5 |
| | 事業活動 | 7 |
| 特集 | 1 品質を追求する「モノづくり改革」 | 9 |
| | 2 $CO_2$削減への挑戦 | 11 |
| | 3 人と自然の共生を目指して | 13 |
| CSR活動の2007年度実績 | | 15 |
| **経営・マネジメント** | | 16 |
| THE ESPEC MIND | | 17 |
| CSR経営 | | 18 |
| **社会性パフォーマンス** | | 20 |
| お客さまとのかかわり | | 21 |
| 従業員とのかかわり | | 23 |
| 取引先さまとのかかわり | | 26 |
| 株主・投資家さまとのかかわり | | 27 |
| 地域とのかかわり | | 29 |

| | |
|---|---|
| **環境パフォーマンス** | 30 |
| 環境マネジメント | 31 |
| 第3次環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」 | 33 |
| グリーンプロダクト（環境に配慮した製品とサービス） | 35 |
| グリーンプロセス（環境に配慮した工程） | 37 |
| グリーンマインド（環境教育） | 40 |
| グリーンアクション(社会貢献) | 41 |
| 物質フロー | 43 |
| 実績データ | 44 |
| 環境会計 | 45 |
| エスペック環境写真・ポスターコンテスト／編集後記 | 46 |

代表取締役社長　進 信義（しん のぶよし）

エスペックの60年という長い歴史のなかで、2007年11月から5代目社長として就任しました代表取締役社長 進 信義をご紹介します。進は技術系の出身で、当社の主力工場である福知山工場長や全社技術責任者として活躍しました。これまで多くの新技術・新製品開発に携わっており、特に恒温恒湿器やバーンイン装置、FPD装置などは、今では当社の主力製品として大きく成長しました。
2005年からは取締役会の議長としてエスペックの発展とコーポレートガバナンスの強化に貢献しています。

主な経歴　profile

1969年　当社入社
1992年　取締役 福知山工場長
1996年　常務取締役 全社技術担当
2002年　エスペックテストセンター株式会社 代表取締役社長
2004年　エスペックテクノ株式会社 代表取締役社長
2005年　代表取締役
2007年　代表取締役社長（現任）

# Top Message

## 社会により高い価値を提供する「グッド」で「グローバル」「グ

### 社会に安全・安心を提供する――事業を通じた社会貢献を第一に考えています。

当社の事業は、いまや現代社会において欠かすことのできないデジタル家電や自動車などの工業製品の信頼性・品質を支え、広く社会の安全・安心づくりに貢献するという、高い社会的意義を持っています。

CSR（企業の社会的責任）には多様な側面がありますが、当社が最も重要なことと位置づけているのは、事業活動を通じて社会的責任をしっかりと果たしていくことです。メーカーにとって「品質は命」ですが、この品質を根底で支える当社製品には、より一層の高い品質が求められています。そのため当社では、製品品質を高めるための取組みを継続的に推進しています。

また、単に製品の品質や性能といった視点だけでなく、お客さまを課題解決に導くためのシステムやサービスなどのソリューション提案を含めて、いかにお客さまにご満足をご提供できるかといった視点が重要と考えています。そして、こうした視点による事業活動によって、持続的な社会づくりに貢献していきたいと思っています。

### 社会の公器として、「価値交換性の高い企業」であり続けたい。

もちろん、CSRは事業活動を通じた社会への貢献に止まるものではありません。当社では創業以来、「企業は社会の公器」という考え方が脈々と受け継がれています。

「社会の公器」であるということは、「社会の幸せを考え、その幸せを高めていく責任がある」ということだと私は考えています。こうした考えに立って、お客さまはもちろん、株主・投資家、取引先や従業員、地域社会など、みなさまとより高い価値を交換しあい、互いにとってより良い関係を築く「価値交換性の高い企業」を目指す――これが、当社のCSRの基本です。

中期経営計画「エスペックGカンパニープラン」では「グリーンカンパニー」を目指していますが、単に環境への負荷を減らすというレベルを超えて、「いかに環境に役立つか」という視点に立っているのも「社会の公器」という当社の考え方に根ざしています。「環境に役立つ」事業ということで、森づくりや水辺づくり、都市緑化といった自然環境の創造・修復を「環境エンジニアリング」として事業化しているのは、エスペックならではと言えるのではないでしょうか。

### 強いものをより強く――小さくてもきらりと輝る企業を目指し、「質的成長」を図ります。

当社の中期経営計画「エスペックGカンパニープラン（2006～2010年度）」では目指す企業像として、「Good（グッド）」で「Global（グローバル）」「Green（グリーン）」な企業「Gカンパニー」を定め

# リーン」な企業「Gカンパニー」を目指します。

ています。現在は、その第2ステージに入っており、2010年度までを「強いものをより強くする質的成長の3年」として、成長戦略を推進しています。これには、単に規模の拡大を追求するのではなく、質的な成長を目指し、「小さくてもきらりと輝る企業でありたい」という私の想いが込められています。「質的成長」を実現するために、具体的には、当社の基幹事業である「環境試験事業」を中心に経営資源を投入するなど、選択と集中を進め、さらなる成長を図っていきます。今回発表したエスペックGカンパニープラン第2ステージの概要は下記の通りですが、2010年度の業績目標値の中で、私は特に営業利益率10%以上を重視しています。これは、「グッドカンパニー」であるために必要不可欠な条件と考え、こだわっていきたいと考えています。

## これからも「プログレッシブ」に――「Gカンパニー」を目指し、挑戦し続けます。

おかげさまで当社は2007年7月に60周年を迎えることができました。これもステークホルダーのみなさまのご支援・ご鞭撻のたまものと、改めて心よりお礼申しあげます。

このエスペックの60年の歴史は、時代とともに変化する社会のニーズにいち早く応え「世界のモノづくり」を支えた時間の積み重ねでもあります。

常に前を向き、「プログレッシブ（進取的）」に挑戦し続けてきた私たちエスペックは、これからもこの「プログレッシブ」を胸に、当社の強みである「環境創造技術」に一層磨きをかけ、世界のお客さまにベストソリューションをご提供していきたいと考えています。今後も当社は、ステークホルダーのみなさまにとって「Good（グッド）」で「Global（グローバル）」「Green（グリーン）」な企業「Gカンパニー」を目指し、歩んでまいります。さらなるご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

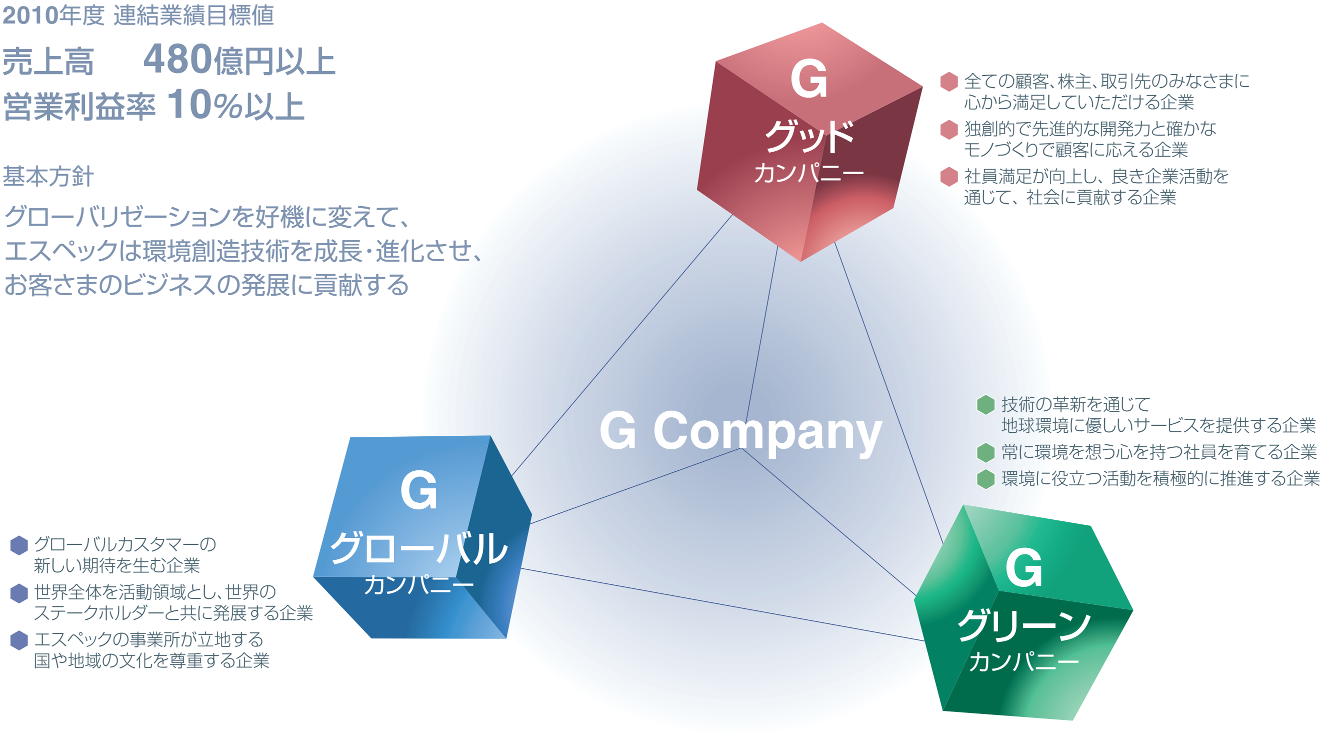
■中期経営計画 「エスペックGカンパニープラン 第2ステージ」（2008-2010年度）概要

2010年度 連結業績目標値

売上高 480億円以上
営業利益率 10%以上

基本方針

グローバリゼーションを好機に変えて、
エスペックは環境創造技術を成長・進化させ、
お客さまのビジネスの発展に貢献する



# エスペックは「環境創造技術」の世界No.1ブランドとして社会の安全・安心づくりに貢献しています。

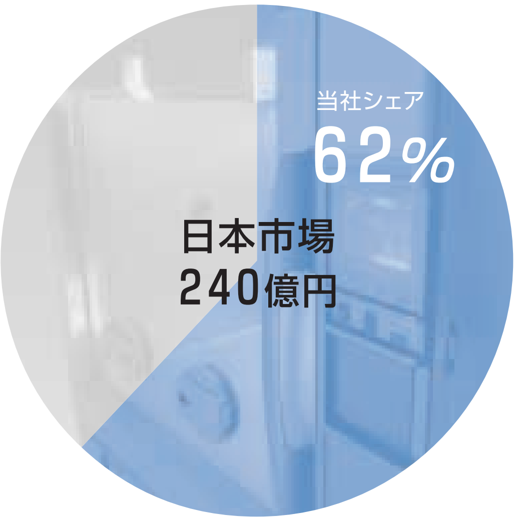
## 「環境創造技術」を通じて、人々の暮らしを支えるさまざまな製品の安全・安心をお届けしています。

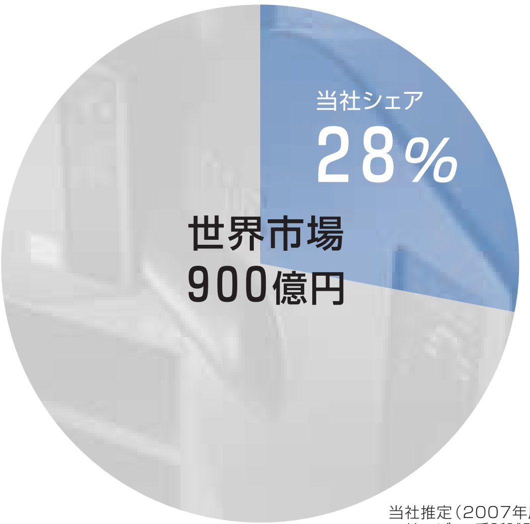
携帯電話やデジタルカメラ、パソコン、テレビなどのデジタル家電製品は、もはや私たちの生活になくてはならない存在。また、自動車や航空機にもたくさんの電子部品が使用されています。これらの工業製品はどのような環境で使用しても、正常に機能することが求められており、ここで重要な役割を果たすのがエスペックの環境試験器です。人工的に温度、湿度、圧力、振動といった「環境」を精密に再現し、それらが製品に及ぼす影響を分析・評価することで、人々の暮らしと社会の安全・安心を支えています。

## 「環境創造技術」世界No.1の強みを活かし、事業展開を図っています。

1961年に日本で初めて環境試験器を開発した当社は、環境試験器市場で国内62%、世界28%のシェアをもつNo.1ブランド。高い品質と技術力で世界のお客さまから厚い信頼を得ています。さらに長年培った「環境創造技術」を要に、液晶などの生産ラインの熱処理工程で使われるFPD装置や、半導体の生産・検査工程における半導体装置、環境の創造や修復を実現する環境エンジニアリングに事業を展開するなど、エスペックの活躍するフィールドは拡がり続けています。

### 環境試験器市場




当社推定（2007年度）
※サービス・受託試験を除く

## 2007年7月25日、エスペックは創業60周年を迎えました。

### 1947
### 焼け跡からの出発

敗戦の傷跡が色濃く残る1947年。理化学器械の製造を目的として、「田葉井製作所」を創業しました。まだ、周囲には焼け野原が広がっていましたが、そこに小さな掘っ立て小屋を建て、操業を開始。まさに、ゼロからの出発でした。

▲戦後の天神橋筋商店街付近

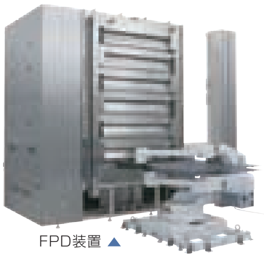
### 1961
### 日本初の環境試験器を開発

高度成長期、電化製品の急速な普及に伴い、その安全性・信頼性の向上のために環境試験が必要とされました。当社はこのニーズにいち早く着目。経営資源を集中させることで、日本初の環境試験器の開発に成功しました。

低温恒温恒湿器（ルシファー）▲

### 1982~
### 新分野への事業展開

環境試験器で培った「環境創造技術」を応用し、半導体の検査工程におけるバーンイン装置（1982年）、液晶などの生産ラインの熱処理工程で使われるFPD装置(1986年)などに事業を展開。これに伴い、業績も加速的に成長していきました。



FPD装置 ▲

## 充実したグローバルネットワークで、世界のお客さまを支えています。

エスペックはお客さまのグローバル化とともに、早くから海外進出を行ってきました。

世界40ヵ国に販売ネットワークを構築しているほか、生産拠点を中国、アメリカ、韓国に設置しています。このような充実した販売・生産ネットワークがグローバルに事業を展開するお客さまへのきめ細やかな対応を可能にしています。

## エスペックグループの総合力を活かし、ベストソリューションを提供します。

エスペックは、製品の製造・販売だけにとどまらず、お客さまに代わって試験を行う受託試験やレンタルなど、お客さまの多様なニーズにお応えするメニューを取り揃えています。また、長年培った技術・ノウハウやエスペックグループの総合力を活かし、試験結果の分析・解析サービスや課題解決のためのシステム提案といった新たなソリューションをご提供することで、お客さまの期待にお応えしています。

### エスペック グローバルネットワーク

エスペックの歴史は時代の要請に応え、時代の一歩先を行く取組みの歴史。
これからも、ステークホルダーの期待を超えていく、「プログレッシブ」な企業であり続けたいと考えています。

#### 1983~

### 本格的な海外進出

中国において日中国交回復がなされる9年前の1963年から現地展示会に出展するなど、大変早い時期から世界に目を向け、輸出販売を行っていました。1983年には、米国に現地法人を設立し、本格的な海外進出を果たすとともに、同年「タバイエスペック」に社名を変更しました。また、1985年には、中国上海にも合弁会社を設立し、翌年には、東京証券取引所、大阪証券取引所 第一部への上場も果たしています。

#### 2002

### エスペックに社名変更

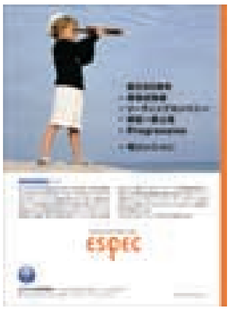
従来からコーポレートブランドとして使用していた「エスペック」に社名を変更。企業体制を一層強化し、新生エスペックとして新たなスタートを切りました。

#### 2007~

### さらなる成長を目指して

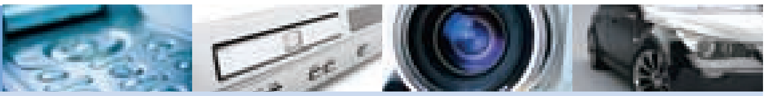
60周年を迎え、これまで以上に「プログレッシブ（進取的）」にさらなる成長に向けて挑戦していくことを心に期しました。

60周年記念シリーズ広告も行いました



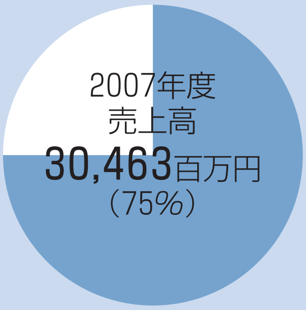
# エスペックならではの3つの事業を展開し、技術の進歩・産業

## 環境試験事業



### 電子機器や自動車などの安全性・信頼性を高めるために役立てられています。

温度や湿度、圧力、振動などを高精度に制御して、あらゆる環境を人工的に再現する環境試験器。パソコンや携帯電話といった電子機器や自動車などの研究開発および信頼性評価用として、ご使用いただいており、エスペックの環境試験器は世界のNo.1ブランドとして高い評価をいただいています。




### 環境試験器

1961年に日本で初めて開発に成功して以来、国内外から高い評価を得ている当社の環境試験器。世界の恒温恒湿器のデファクトスタンダードといわれる「プラチナスKシリーズ」をはじめ、「冷熱衝撃装置」や「急速温度変化チャンバー」、自動車などにも対応できる大型の「恒温（恒湿）室　ビルドインチャンバー」等、多彩な製品ラインナップでお客さまのご要望に的確にお応えしています。

ワイドビュー恒温（恒湿）器
プラチナスKシリーズ

冷熱衝撃装置 TSAシリーズ

### アフターサービス・エンジニアリング

エスペックでは製品を販売して終わりではありません。最適な製品メンテナンスで、環境試験器の故障防止・信頼性向上を図るとともに、24時間フルタイム技術対応サービスで、万一の故障時にも迅速に対応しています。また、製品の設置・移設、周辺機器の販売、お客さまの課題解決のためのシステム提案など、さまざまなニーズにきめ細かに対応し、お客さまをトータルでサポートしています。

急速温度変化チャンバー

恒温（恒湿）室 ビルドインチャンバー

### 受託試験・レンタル

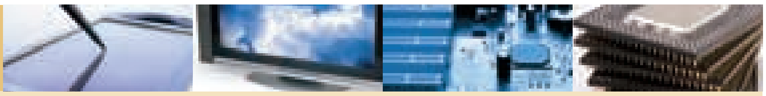
お客さまに代わって試験を行う受託試験も積極的に展開。現在、宇都宮、神戸、横浜、刈谷、豊田の5カ所に試験所を有し、プロならではのノウハウと充実した設備でお客さまのニーズに対応しています。また、製品レンタルや中古販売、試験結果の分析・解析サービスなども行っています。

エスペックテストセンター（株）豊田試験所

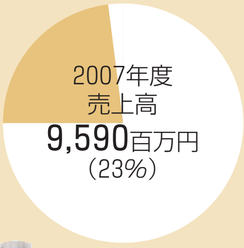
試験所内風景

# の発展に貢献しています。

## 電子デバイス装置事業



### 高度な温度制御・クリーン熱処理技術で、FPDや半導体の技術革新を支えています。




FPD(フラットパネルディスプレイ)や半導体の製造にあたっては、高度な温度制御やクリーン化が欠かせません。これら電子デバイスの製造や検査工程において活躍しているのが、エスペックの電子デバイス装置です。生産性向上、低コスト化、高性能化へのニーズにお応えしています。

#### FPD装置

液晶やプラズマなどのFPDの生産ラインにおけるクリーン熱処理装置および検査装置を提供しています。薄型テレビの普及により、年々拡大するLCD(液晶ディスプレイ)の次世代サイズへの対応もいち早く進め、お客さまから高い評価をいただいています。

枚葉式クリーンオーブン

#### 半導体装置

半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、半導体の検査工程におけるバーンイン装置を提供しています。製造・検査工程での信頼性や歩留まりの向上、効率化・低コスト化などのニーズにお応えしています。

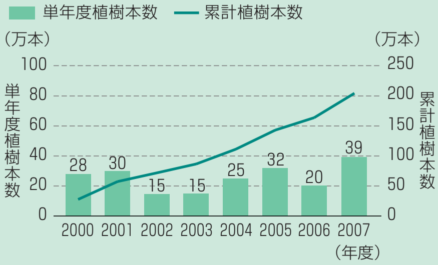
バーンインチャンバー

## 環境エンジニアリング事業

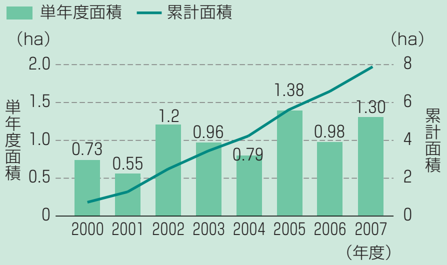
### 「自然の植生」にこだわった森づくりや水辺づくりなど、「本物の環境づくり」を行っています。

環境エンジニアリング事業では、その土地本来の植生にこだわった植樹を行う「森づくり」や自然の河川を取り戻す「水辺づくり」に加え、都市緑化や環境測定など、環境の創造や修復に関わる事業を展開しています。植樹本数は現在では累計約200万本、水辺づくりの累計面積は約8haにも上ります。

■森づくり




■水辺づくり



特集 01　>> special issue

# 品質を追求する「モノづくり改革」

エスペックの環境試験器は、家電や電子機器、自動車など、さまざまな工業製品の安全性や信頼性を高めために使われるもの。そのため当社製品の品質は、お客さまのみならず、お客さまが生産した製品を使用する多くの一般消費者にまで大きな影響を持ちます。こうした意味で、当社製品の品質が担う社会的責任は重大です。当社ではこうした認識のもと、国内最大の生産拠点であり、生産技術の開発拠点でもある福知山工場で、品質を高める「モノづくり改革」に継続して取組んできました。その概要を、生産技術部の渡辺部長に語ってもらいました。

当社の「モノづくり改革」はQCD（Quality=品質、Cost=コスト、Delivery=納期）の三つの視点で取組んでいます。その取組みは、MCRやデジタルモノづくりと呼んでいる製品の企画･設計段階での仕組みづくりの部分と、生産現場での仕組み･意識･行動を変える実践的なQ-UP（品質向上）活動の両輪から成り立っています。

## QCD向上を目指し、MCRで、設計レスに挑戦。

エスペックの製品はお客さまが実施する環境試験の内容に合わせて、実にさまざまなカスタマイズが必要になります。お客さまにご提供する製品の約6割に何らかのカスタマイズを行っており、設計の大きな負担になっていました。しかも、同じようなカスタマイズでもその都度設計していたために、過去の不具合が再発する可能性がありました。また標準仕様から外れる製品は、生産管理や資材調達、生産･検査工程でも問題が起きがちでした。

こうした問題を解決するために取組んだのが、MCR(モジュール･コンフィグレータ=機能の繰り返し使用)です。従来一つひとつ設計してきた部分を「拡張モジュール」として登録･標準化し、繰り返し使用できるようにして、お客さまのカスタマイズの要求に応えようというものです。これにより設計レスにして納期を短縮するとともに、品質の向上、コストの削減も実現しました。

生産技術部長　渡辺 正和

## 開発SCMの視点からデジタルモノづくりを推進。

MCRとならび、企画･設計段階での製品品質の向上、開発リードタイムの短縮を行うために取組んだのが、開発SCM（サプライ･チェーン･マネジメント）の視点に立った「デジタルモノづくり」です。これは、開発段階から量産を見据え、最適化していこうというもので、①コンカレントエンジニアリング、②デジタルエンジニアリングの二つに取組みました。コンカレントエンジニアリングとは、最初の商品企画の段階から、開発と生産技術、生産、サービスが並行して取組むというものです。従来は開発部門による製品企画･試作が先行し、生産技術･生産部門が後を継ぐという2段階のプロセスで行っていましたが、コンカレントエンジニアリングではこれを同時並行的に進めるため、開発リードタイムを約半分にすることができます。

さらに試作設計の段階から生産技術の目が入るため、設計上の問題が発見しやすく、品質向上にも大きく貢献するのです。

そして、このコンカレントエンジニアリング実現のポイントとなったのが、デジタルエンジニアリングです。デジタルエンジニアリングとは、試作品の設計から工程設計、製作手順検証などのすべてを、3次元CADを用いてコンピュータ上の仮想で行ってしまおうというもの。試作品を実際に製作して製作検証する期間およびコストが低減できるため、

試作設計から検証までのプロセスを何度も繰り返すことができ、生産技術の視点から見ても合理的な設計を実現し、品質安定性を高めることができます。

## ムリ・ムダをなくして品質向上を実現したQ-UP活動。

こうした開発・設計の仕組みとともに、「モノづくり改革」の中核を担うのが、生産現場での品質の維持向上を図るQ-UP活動です。

Q-UP活動では、本体組立などの大きなものは複数の作業員でラインを構成する「1台流し生産方式」を導入。一人でできる小さなものや本体に取付けるユニットなどは「セル生産方式」を導入し、これら二つを組み合わせて生産を行っています。

そして、生産工程は可能な限り細分化し、標準化。だれでも間違いのない作業ができることを目指しました。また部材や工具を各工程ごとに必要なものだけを配置して、ムダな動作やミスを徹底して減らす仕組みを導入しました。それとともに作業が遅れたり滞ったりしたら、ライン管理者および他の作業者がひと目で分かる仕掛け（タクトナビゲーション）で作業工程の「見える化」を図りました。何か異常があれば、ラインの仲間たちが協力して解決にあたり、スピーディに復旧できるようにしたわけです。

これらの生産プロセスは、基本となる「1台流し生産」が“売れるスピード”で生産し、「セル生産」がそのスピードに合わせてユニットを供給。それら両方の“造るスピード”に合わせて部品を配膳し、調達するというようになっています。

“売れるスピード”を基本におくことで、余分な仕掛品などが発生せず、ムダのない生産が可能になりました。

## モノづくりの心を一つに――徹底した3S活動に取組む。

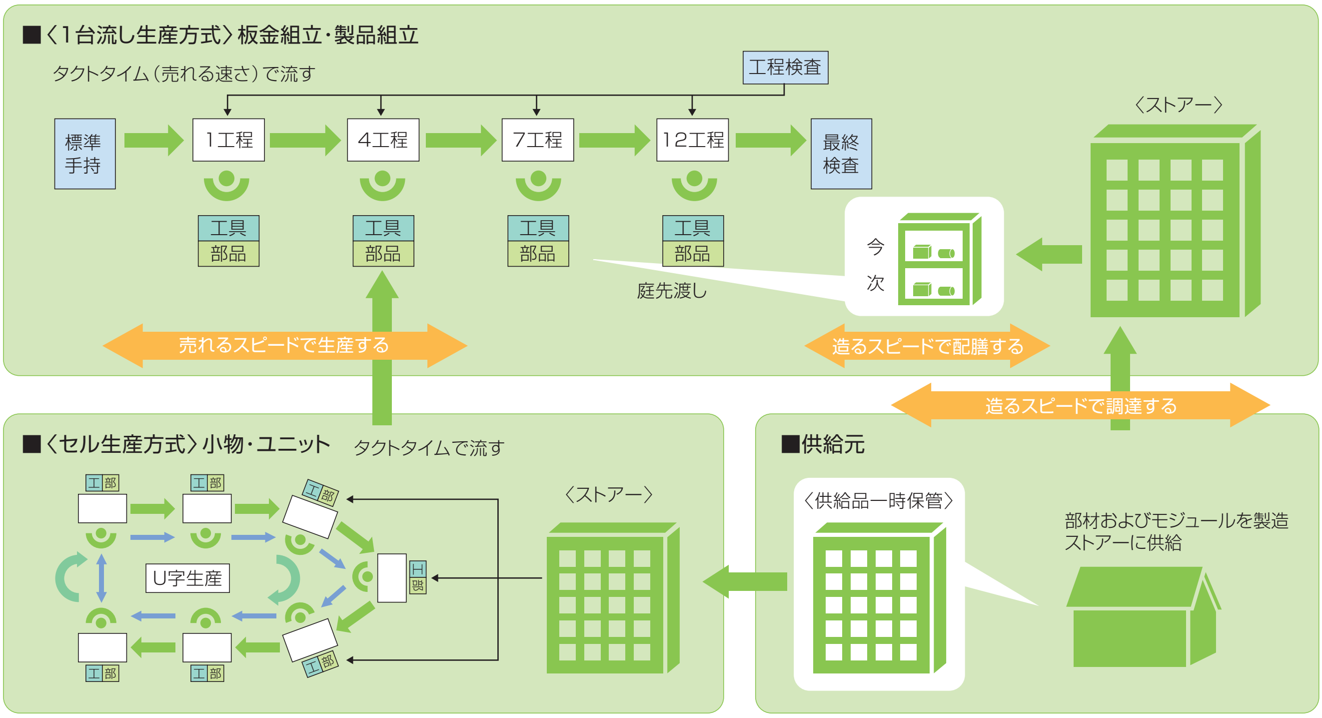
こうした生産活動の仕組みが第1の柱とすると、Q-UP活動のもう一つの柱が、職場3Sによる意識改革活動です。最近はよく「整理」「整頓」「清掃」の3Sに「清潔」「しつけ」を加えた5Sということが言われますが、私たちは3Sを繰り返し「徹底」することで、「清潔」「しつけ」につながっていくという考えから、3Sの徹底を図ろうという方針で臨んでいます。

3Sは単に職場をきれいに保つということを目的にしていません。重要なのは、守ることを決めて「徹底」することを通して、従業員みんなの「モノづくりの心」を一つにしていくことにあります。そして、その結果、職場がきれいになるのだと考えています。

3S活動を通じてよい習慣、よい風土・文化を築くために、「ふくちやま工場3Sニュース」「ふくちやま工場3Sテレビ」などの広報活動や3S発表会の実施により、工夫や成果などの共有化、モチベーションのアップを図っています。さらに、毎週水曜日は「管3日」と名づけ、始業前に管理・監督者だけで3S活動を行うように決めています。 リーダーが率先して、普段しないところを清掃したり、出勤時間帯に従業員を出迎えたりすることで、全員一丸となった取組みができるようにしています。

これらの「モノづくり改革」の取組みにより、2005度比で市場クレーム率は約50%低減（2007年度）と品質を大きく高めることができました。また、製造生産性も2007年度の段階で約1.75倍（2001年度比）に高まっています。製造リードタイムは41%短縮（2003年度比）しています。今後もさらなる品質向上を目指し、「モノづくり改革」を続けていく方針です。

一台流し生産ライン



特集 02 >> special issue

# $CO_2$削減への挑戦

異常気象の危険性への社会的認知が高まるなか、$CO_2$削減は企業の社会的責任を考える上でますます重要性を増しています。「グリーンカンパニー」を目指すエスペックでは、環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」で我国の京都議定書の削減目標である6%を上回る10%という高い目標を掲げ、$CO_2$削減に取組んでいます。そこで、エスペックの取組み全体について、環境管理担当役員である福本常務執行役員に話を聞きました。

## 全社予算を別枠にするなど $CO_2$削減の体制を強化しました。

京都議定書では2008年から2012年までの期間中に$CO_2$を1990年比で6%削減することが日本全体の目標となっていますが、当社ではそれを上回る10%削減（2010年度）を目標に取組んでいます。これは敢えて高い目標を設定し、推進のドライバーにしていこうという考えに基づいています。

とはいえ、1990年以前から省エネ･$CO_2$削減に取組んできた当社にとって、10%削減という目標は非常にハードルが高いのは事実です。2007年度の削減量は生産部門が高効率の設備の導入やムダの削減により約91t、事務系が節電や省エネ機器の導入、社有車の低燃費化、クールビズの徹底などにより約106t、太陽電池の電力活用により約50t、モーダルシフトにより約28tとなり、その他を含め事業活動での削減量は約270tとなりました。削減目標達成のためには前年度比年間500tの削減が必要で、排出権取引を含め、これまで以上に全社的な視点から取組むことが必要になってきました。

例えば電力源の変更や大規模な投資を含めて工場の仕組みを変えるなど、個別の部門ごとではできないことに取組んでいく必要が高まっています。もはや単なる省エネ機器の導入や節電と言ったレベルでは対応できなくなっています。

こうした状況に対応し、当社ではこれまで各部門の予算枠で考えていた環境対策費を、全社予算として別枠で計上するように変更しました。これにより、部門個別の業績や都合に左右されず、全社的な$CO_2$削減の取組みにつなげたいと考えています。

常務執行役員(環境管理担当)　福本 博道

## サスティナブルなテストシステムで お客さまの$CO_2$削減に貢献したい。

しかしながら、$CO_2$対策は社内での削減にとどまるものではありません。当社では、①社内の事業活動での削減だけでなく、②自然環境の創造･修復といった環境エンジニアリング事業を通じた削減、③製品やソリューションの提供によるお客さま先での$CO_2$削減の3つの側面から考えています。

環境エンジニアリング事業ではエスペックミックが中心となって、森づくりや水辺づくり、都市緑化などにより、$CO_2$削減に貢献しています。

エスペック本体としては、$CO_2$削減をはじめとする環境共生型の「サスティナブルなテストシステムの提供」で、お客さま先での$CO_2$削減を図ることが重要になります。

そのために、3つの視点からの対策を推進しています。

### 旧モデル比 50%省エネの グリーンプロダクトの開発

一つ目は、環境に配慮した省エネ製品を開発･販売することです。これまでは旧モデル比30%省エネを基準としていましたが、今年からフルモデルチェンジで50%以上の省エネに基準を変更しました。そのために、インバータ制御や断熱材対策など、設計全般の見直しを行っています。

福知山研修センターのソーラーパネル。宇都宮、神戸の各拠点にも設置し、年間約50tの$CO_2$を削減

### 試験時間を短縮して、試験にかかる使用エネルギーを減らすソリューション開発

二つ目は、製品性能の視点に加え、試験時間なども含めた試験全体を考えて、消費するエネルギーを減らそうというものです。

環境試験は長いものは数千時間にわたり高温から低温まで温度を上げ下げするので、大変なエネルギーを消費します。そこで、私たちの発想は、新たな試験を開発し、何とか試験時間を短縮できないかというものです。もし試験時間を1/3に短縮できれば、消費エネルギーも1/3にできます。

もちろんお客さまの製品の信頼性をテストするのが環境試験なので、試験そのものの信頼性が損なわれるようでは何にもなりません。温度を急速に変化できる高性能な製品の開発はもちろんですが、もう一つ必要なのはノウハウを蓄積し、ハード+ソフトのソリューションとして開発することです。

そのために、当社ではさまざまな実験を行いながら、開発に挑戦しています。また、それだけではなく、お客さま先の研究者や技術者と共同で研究を進めることで、より広範囲なノウハウの蓄積・技術開発に取組んでいます。

### 製品のライフサイクル全体の視点からの環境負荷の低減

最後が、製品のLCA（ライフサイクルアセスメント）の視点から、製品の環境負荷を低減することです。たとえばリサイクル率を高める、修理による製品の長寿命化などがこれにあたります。当社は2007年度に日本全国で製品の回収・リサイクルを進めるため、環境省が定める広域認定制度の認定を受け、体制を強化しました。

## $CO_2$削減のために多彩な活動を展開します。

$CO_2$対策として大きな課題は、工場の電力源の代替化とオフィス、特に本社の対策がポイントになります。本社ではさまざまな業務機能が集約されているため、なかなか1つの対策が徹底しないのが現状です。例えば週に1度早く退社する一斉退社日を設定しましたが、個別部門の業務都合により、退社できないというケースがあります。やはりリーダーシップによる指導や業績管理目標との連動による徹底が必要です。また、社有車などにアイドリングストップ装置を設置するなどのきめ細かな$CO_2$対策も、順次充実させています。

この他にも、従業員の家庭での$CO_2$削減を支援する「エコ・チャレンジ・ファミリー制度」を創設しました。また、従来、地球環境問題の解決のための調査研究や技術開発に限られていた「エスペック地球環境研究・技術基金」の対象を緑化の教育・啓発にも拡大し、助成金も増やしました。

$CO_2$10%削減という目標はハードルが高く、なかなか大変ですが、「グリーンカンパニー」に向け、全社一丸となって取組んでいきたいと考えています。

---

**Voice of the employee** | 社員メッセージ

### エスペック・エコ・チャレンジ・ファミリー制度

エスペックの環境経営に対する真摯な取組みは、さまざまな業界からも注目を浴びています。
エスペックの社員とその家族の「環境活動（エコ・ライフ）」を支援する「エスペック・エコ・チャレンジ・ファミリー制度」は、2008年1月28日、大阪市中央区で開催された「大阪府生活協同組合連合会政策討論会のパネル・ディスカッション（テーマ:地球温暖化を防止するために私たちができること）」で紹介され、参加された多くのみなさまの共感を呼ぶことができました。
今後もこうした取組みを通じて、エスペックのみならず、お客さま、お取引先さまなどすべてのパートナーのみなさまと「このかけがえのない地球を大切にする心＝グリーン・マインド」を醸成させていきたいと思います。

環境管理部　EM推進グループ
**前田 照隆**

政策討論会風景
（写真提供 大阪府生活協同組合連合会）

特集 03 >> special issue

# 人と自然の共生を目指して

「グリーンカンパニー」を目指すエスペックにとって、重要な事業の一つが自然環境を創造、修復する「環境エンジニアリング事業」です。この事業の中心となるのが、エスペックミック株式会社。すでに森づくり、水辺づくりで豊富な実績を持っていますが、今回、大都市でのヒートアイランド対策として注目されている屋上緑化で、コケを用いた画期的な「ユニット式薄層緑化システム〈エスモス〉」の販売を開始しました。そこで、エスペックミックの事業とエスモスの特長などについて、前川社長に話を聞きました。

エスペックミック株式会社　代表取締役社長　**前川　剛司**

## 自然の植生にこだわった、森づくり、水辺づくりを展開する。

エスペックミックは、森づくりや水辺づくりで着実に実績を上げてきました。植樹本数は累計約200万本、水辺づくりの累計面積は約8haにも上ります。

私たちは自分たちのことを一般の造園·土木企業とは思っていません。私たちの企業理念は「『本物』の環境をつくることにより社会に貢献する」というもの。ここに、私たちが「エスペックグループ」の一員であるという証があります。ですから、エスペックミックは、自然の植生にこだわり、その土地にあった植物を使って環境を創造し、修復するという考えを大切にしています。

手間はかかりますが、単に〈美しい〉とか〈管理しやすい〉といった視点だけで植物の種類を決めたり、単一の種類を大量に植えたりするのではなく、本来の生態系、自然の多様性を大切にするという姿勢を貫いているのです。

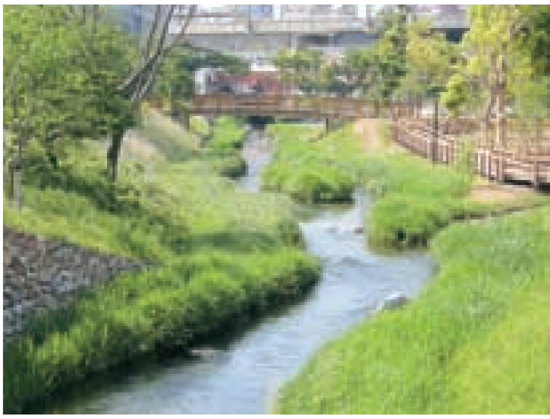
## 森·水辺に続く第3の領域。それが都市の屋上緑化です。

今回開発した屋上緑化·壁面緑化システム「エスモス」は、森·水辺に続いて「都市」という領域で自然環境づくりに貢献したいという考えから生まれました。

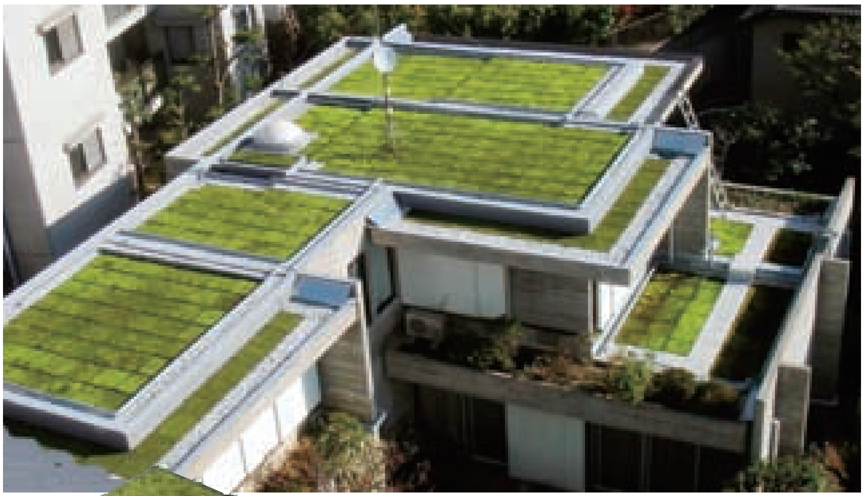
近年大都市ではヒートアイランド現象が問題になっています。屋上緑化はその解決の手段として注目されていますが、①土壌の重みにより屋根に荷重がかかる、②散水や刈込みなどのメンテナンスが大変、③施工が難しいなど、数々の問題があり、なかなか普及していないのが実態です。

私たちの「エスモス」は、そうした問題を解決する画期的な緑化システムです。「エスモス」は日本でも広く見られる「スナゴケ」を利用しています。スナゴケは生育の本質的な要件として土壌を必要とせず、乾燥に強いという特長があります。水がない状態でも“仮死状態”になるだけで、水分が補給されると即座に生物活動を開始します。

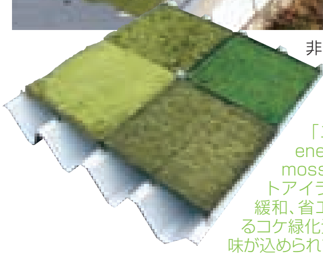
だから、薄く·軽い、散水や刈込などの



ヨシやガマ、マコモなど地域の植物を活用して多自然川づくりを行っています。



非常に軽量で施工も容易な「エスモス」は、さまざまな建物の緑化に貢献します。



商品名
「エスモス」は
energy saving
mossの略で、ヒー
トアイランド現象の
緩和、省エネに寄与す
るコケ緑化資材という意
味が込められています。

メンテナンスが原則不要といった特長を持っています。例えば工場や駐車場の折半屋根といった熱くなりやすいものや耐荷重性がないものなど、これまで緑化が不可能とされていた場所でも施工できます。しかも、屋上だけでなく、ビルや住宅の壁面の緑化にも使えます。つまり、「エスモス」が都市に「新しい自然」の領域を広げてくれるわけです。

夏には60℃〜80℃に達する金属の折半屋根に断熱効果の高いエスモスを施工すれば、大きな省エネ効果も期待できます。緑化そのものの効果だけでなく、空調に伴う排熱や$CO_2$排出などを減らす効果も期待できるわけです。

すでに室外機の設置されている高層ビルの屋上や工場の守衛室の屋根、マンションの駐輪場などで実績を積み重ね大変喜ばれています。

## エスペックの「環境創造技術」が高品質・短期間での生産を実現。

スナゴケを使って緑化するというのは、これまでも行われていたことです。しかし、スナゴケを生育するには、自然圃場なら1〜2年もかかってしまいます。

この問題を解決したのが、大阪府立大学の村瀬治比古教授の研究です。その研究成果とエスペックならではの「環境創造技術」による高度な温湿度コントロール、養液等の土壌管理技術などを活かして生まれたのが、「エスモス」です。圃場育成と組み合わせることで、高品質のコケを安定的に、しかも短期間で生産することが可能になりました。

現在は生育に約6ヶ月かかりますが、これを3ヶ月に短縮し、大量生産とコストダウンを図り、大都市のヒートアイランド化の防止に貢献したいと思います。

Voice of the employee | 社員メッセージ

### 植物生産事業について

エスペックミックでは、「植物ソリューション」をキーワードに地球環境保全から食の安全・安心、やすらぎの空間創造など私たちの日常と切り離せない問題を、植物を通じて考え、その解決策などを提案しています。

植物の最適な生育環境（光・温度・湿度・土壌温度など）をコントロールし、植物を育てる育苗装置や植物工場は、天候に左右されず、植物を安定的に生産することができるため、地球温暖化の影響とされる異常気象対策としても、ますますその必要性が高まっています。エスペックミックでは、その育苗装置によって、新たにコケの生産を開始しましたが、コケは、光合成により吸収した二酸化炭素を放出することなく、炭素の固定化効率が非常に高いため（杉の10倍）温暖化ガスの吸収・削減効果が見込めます。さらに、都市部のヒートアイランド現象の緩和も期待されるため、社会的にも大変重要な事業であると認識し、日々仕事に取組んでいます。

エスペックミック（株）
環境モニタリング部 部長 **中村 謙治**

### ■エスペックミック株式会社 会社概要

| | |
|---|---|
| 設　　立 | 1988年7月 |
| 事業概要 | 森づくり、水辺づくり、都市緑化などの環境の創造・修復事業 |
| U　R　L | http://especmic.co.jp |
| 本　　社 | 〒480-0138<br>愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1<br>Tel.0587-95-6369 |
| 大阪オフィス | 〒572-0039<br>大阪府寝屋川市池田3-11-17<br>Tel.072-801-7805 |
| 東京オフィス | 〒274-0824<br>千葉県船橋市前原東2-10-3-A<br>Tel.047-403-5690 |

在来の樹木の種子から苗木をつくり、育てる「ふるさとの森づくり」を進めています。

ショッピングモールにおける植樹祭なども多数手掛けています。

# CSR活動の2007年度実績

エスペックは、自社のCSRに関する重要項目を「経営・マネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3項目に分類し、管理・推進しています。「経営・マネジメント」がすべての基盤であり、その特徴は、企業としての価値観や、行動原則・行動基準などを単に定めるだけでなく、経営トップから従業員までが共有化していることにあります。
これを基盤として、ステークホルダー・エンゲージメント、環境活動の大きく2つのCSRの実践につなげています。
2007年度の主な取組みは、以下の表に記載の通りです。

| 項　目 | 目　的 | 2007年度の主な取組み | 掲載・関連ページ |
|---|---|---|---|
| 経営・マネジメント | CSR経営<br>・社会性・透明性・効率性の高い経営体制の構築 | ■リスク管理規定の制定 | 18 |
| | | ■内部統制委員会の設置 | 19 |
| | | ■内部統制評価部門の設置（2008年4月） | |
| | | ■反社会的勢力への対応統括部署の設置および不当要求防止責任者の設定（2008年4月） | |
| 社会性パフォーマンス | お客さまとのかかわり<br>・安全・安心してお使いいただける質の高い製品・サービスの提供 | ■「モノづくり改革」におけるQ-UP活動の推進 | 9-10 |
| | | ■カスタマーセンターの機能分離による体制強化 | 21 |
| | | ■お客さまへの省エネ提案の実施 | 22 |
| | | ■新試験所開設（2008年4月）および業務提携による受託試験サービス体制の充実 | |
| | | ■顧客満足度調査の実施 | |
| | 従業員とのかかわり<br>・快適な職場環境の提供<br>・活躍できる場の提供 | ■チャレンジャー表彰の実施 | 23 |
| | | ■従業員満足度調査の実施 | 24 |
| | | ■メンタルヘルスケアWEB相談窓口の開設（2008年4月） | |
| | | ■選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」の導入 | 25 |
| | | ■推奨資格取得支援制度の導入（2008年4月） | |
| | 取引先さまとのかかわり<br>・公平な取引関係による適正な調達 | ■下請法チェックリストの改定、内部監査の実施 | 26 |
| | | ■エスペック優良取引先表彰の実施 | |
| | | ■資材調達におけるBCM（事業継続マネジメント）の開始 | |
| | | ■グリーン調達取引先の認定範囲の拡大 | |
| | 株主・投資家さまとのかかわり<br>・迅速かつ適切な企業情報の開示 | ■開かれた株主総会・株主懇談会の開催 | 27 |
| | | ■機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会の開催 | |
| | | ■個人投資家向け会社説明会の開催 | |
| | | ■IRツール・サイトの充実 | 28 |
| | | ■株主・投資家さまアンケートの実施 | |
| | 地域とのかかわり<br>・社会貢献活動の実践 | ■公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による資金援助の実施。助成対象範囲の拡大および助成金の増額（2008年4月） | 29 |
| | | ■職業体験学習・社会工場見学の受け入れ | |
| | | ■地域清掃活動の実施 | |
| 環境パフォーマンス | 環境への取組み<br>・地球温暖化の防止、資源循環、有害物質削減、社会貢献<br>・環境マネジメント活動、製品・サービスの改善 | ■重点テーマ別委員会の設置および目標達成責任者の設定（2008年4月） | 32 |
| | | ■環境配慮製品の開発および拡販 | 35·37 |
| | | ■モーダルシフト（鉄道輸送の活用）の開始 | 37 |
| | | ■グリーン購入の促進 | 38 |
| | | ■社有車の低燃費車への順次切り替え、アイドリングストップ装置の導入 | |
| | | ■広域認定制度の認定取得による製品回収サービスの開始 | 39 |
| | | ■全社環境大会の開催 | 40 |
| | | ■環境フェスティバルの開催・出展 | 41 |
| | | ■小学校でのグリーンカーテンレクチャーの実施 | |
| | | ■森林利用保全協定の締結およびモデルフォレスト（環境保全活動）の実施 | 42 |
| | | ■「エスペック・エコ・チャレンジ・ファミリー制度」の開始 | |
| | | ■環境省「ブラックイルミネーション」への参画、屋外広告点灯時間の短縮（2008年4月） | |

Management

# 経営・マネジメント

エスペックは、社会に価値を提供し続ける企業であるために、エスペックの価値観を体系的にまとめた「THE ESPEC MIND」において、私たち全員が尊重すべき事項として「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」を定めるとともに、「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。私たちはこの「THE ESPEC MIND」に基づき、CSR活動を進めることで、企業価値の向上に取組んでいます。


17 THE ESPEC MIND

18 CSR経営


東京支社

# THE ESPEC MIND

エスペックは、創業当時から脈々と伝わる価値観を体系的にまとめた「THE ESPEC MIND」を、あらゆる意思決定や活動の指針として、企業活動を行っています。また、この思想をベースに、エスペックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を明記した「エスペック行動憲章・行動規範」の遵守および実践に取組んでいます。

「THE ESPEC MIND」

エスペックは、創業当時から脈々と伝わるエスペックの価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動のよりどころとなる「THE ESPEC MIND」を制定しました。この「THE ESPEC MIND」の思想の中心は、エスペックが「社会に価値を提供し続ける存在」でなければならないというものであり、その中の「宣言」では、経営において私たち全員が尊重すべき事柄として、「遵法」、「文化」、「人権」、「環境」、「啓発」の5つを挙げ、その実践を誓うとともに、エスペックが「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。

そして、2006年5月、この「THE ESPEC MIND」の思想をベースに、エスペックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を具体的に明記した「エスペック行動憲章・行動規範」を新たに制定しました。本行動憲章・行動規範をエスペックに所属する一人ひとりが遵守し、積極的に実践することで、CSRのさらなる向上を図っていきたいと考えています。

## エスペック行動憲章

**社会貢献活動の実践**
よき社会の一員として、より健全で豊かな社会の実現に向け、積極的に社会貢献活動を行います。

**法令・企業倫理の遵守**
一人ひとりが、事業を展開する国や地域の法令、社会規範、企業倫理を遵守し、誠実に業務を行うよう努めます。

**文化の尊重**
事業を展開する国や地域の文化、社会規範を尊重するとともに、企業文化の良質化に継続的に取組みます。

**人権の尊重**
基本的人権を尊重し、社内外において、性別・年齢・国籍・人種・民族・宗教・信条・社会的身分・障がい等による差別的取扱、言動は一切行いません。

**地球環境保護・保全への貢献**
地球保護・保全・改善は企業経営の最重要課題のひとつであると認識し、あらゆる国や地域において、自主的かつ積極的に環境保全活動に取組みます。

**お客さまの信頼と満足の追求**
すべての企業活動において、お客さまの視点に立った活動を行い、お客さまの信頼と満足を追求します。

**職場環境の維持・向上**
労働安全衛生に関する法令や社内規定等を遵守し、従業員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に努めます。

**適切な情報の開示**
あらゆるステークホルダーのみなさまに対して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーに提供し、実直なアカウンタビリティーを実践します。

**エスペック行動憲章・行動規範の啓発・教育**
あらゆる機会を創出して、エスペックの行動憲章・行動規範の啓発と教育を行い、社内への周知徹底を図ります。

# CSR経営

エスペックは「社会の公器」として、ステークホルダーのみなさまとより高い価値を交換し合い、互いにとってより良い関係を築く「価値交換性の高い企業」を目指しています。この基本的考えのもと、継続してコーポレートガバナンスおよびリスクマネジメントの強化、コンプライアンスの確保に取組むことで、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立に努めています。

## コーポレートガバナンス

### 基本的な考え方

エスペックは、企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置であるという「企業は公器」との考えのもと、ステークホルダーのみなさまとより良い関係を築き、それぞれに対する価値交換性を高め、責任を果たしていくことが社会的使命であると考えています。この基本的考えを踏まえて事業活動を行うにあたり、コーポレートガバナンス（企業統治）の確立は不可欠であり、コンプライアンス（法令遵守）の確保と、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

### コーポレートガバナンス体制

エスペックは、権限と責任の明確化と、意思決定と実践の迅速性を高めることを目的に、執行役員制度を導入しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化も図っています。また、監査役設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会に必ず出席し、取締役会や執行役員会で協議・決定された業務執行に対して適正な監査を行っています。

2008年6月末現在、取締役は社外取締役2名を含む7名、監査役は社外監査役2名含む4名、執行役員は社長を含め13名で構成しています。

## リスクマネジメント

### リスク管理の推進・強化

リスク管理体制については、2006年8月にリスク管理委員会を設置し、2007年7月に「リスク管理規定」を制定しました。エスペックは、下記リスクマネジメント方針のもと、年度ごとに重要管理リスクを設定し、継続してリスクマネジメントの強化に努めています。

■リスクマネジメント方針

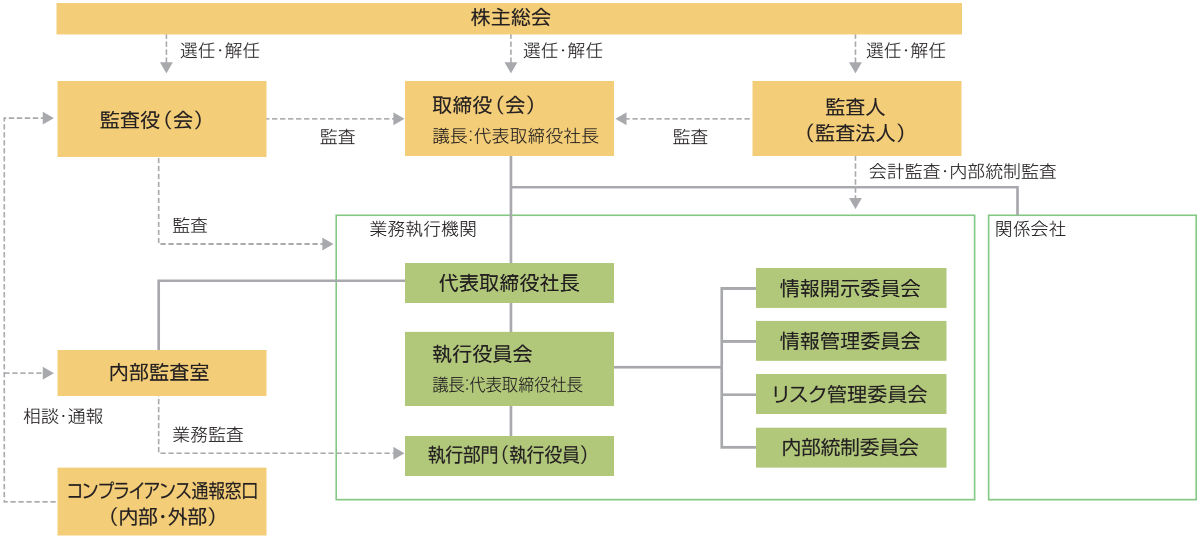
- リスクマネジメントの実践を通じ、事業の継続と安定的発展を確保する。
- 製品・サービスの品質と安全性の確保を最優先に、お客さま・取引先・株主・投資家・地域社会・地球環境などの各ステークホルダーならびに役員・社員の利益阻害要因の除去・軽減に努める。
- 社会に製品・サービスを供給する者としての責任を自覚し、安定的に供給することを社会的使命として行動する。
- コンプライアンスの精神で法令・規則・行動憲章などを遵守し、各自が倫理的に正しい行為を自律的に判断し行動する。

### 情報管理・開示体制の構築

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定するとともに、情報管理委員会および情報セキュリティ委員会を設置しています。

情報開示体制については、適時適切な開示の充実を目的として、「情報開示規定」の制定や情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含め適切に開示しています。

■コーポレートガバナンス体制



### 内部統制システムの構築

エスペックは内部統制に関する基本方針に、意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を遵守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、その運営状況のチェックと自浄機能が作用される社内システムの構築・維持することで、社会やステークホルダーに信頼される会社であり続けることを定めています。

2007年度は、従来設置していた「内部統制準備委員会」をより実践的な「内部統制委員会」へと改編し、「リスク管理委員会」との一体的な運用を図るなど、内部統制システムを構築しました。

2008年4月よりそのシステムの運用を開始するとともに、新たに内部統制評価部門を設置することで、その有効性について評価を行っています。

### 反社会的勢力排除に向けた取組み

エスペックは、「エスペック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

2008年4月に、対応統括部署および不当要求防止責任者を設置するとともに、外部専門組織との連携体制を構築しました。さらに、具体的な対応を定めた「反社会的勢力対応マニュアル」を策定しました。これにより、社内への浸透を図っていきます。

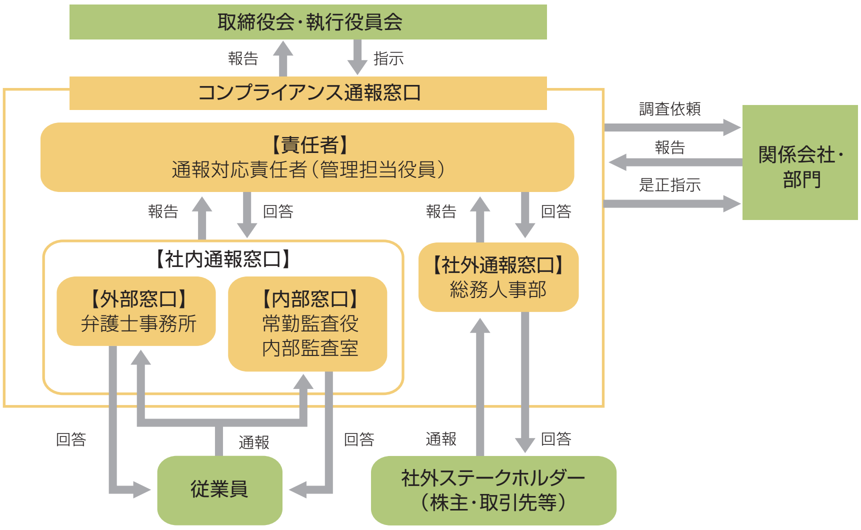
## コンプライアンス

### 「エスペック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

エスペックでは、「エスペック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページのCSRサイトに掲載し、社内外に公表するとともに、研修の実施や常時携帯するための小冊子の配布を行っています。

「エスペック行動憲章・行動規範」小冊子

■コンプライアンス通報制度体制




### コンプライアンス通報窓口の設置

エスペックは、「コンプライアンス通報規定」を制定し、当社従業員はもとより、お客さまやお取引先さまなど社外の方からも広く通報をお受けするコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報内容については、通報者のプライバシー保護のため、窓口・調査関係者以外には秘密を厳守します。また、脅迫など不正な目的で通報が行われた場合を除き、通報を行ったことを理由とする本人への不利益な取扱いは一切行いません。本窓口により、不正行為等の早期発見・早期解決および未然防止を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化を図っています。

Voice of the employee ｜ 社員メッセージ

### 内部統制評価部門の新設

2006年4月に内部統制準備委員会（現 内部統制委員会）を発足し、内部統制の整備を進めてきました。そして、2008年4月より内部統制システムの有効性を評価することを目的に、内部統制評価部門が新設されました。内部統制の有効性評価は、内部統制委員会で、各部門・各子会社で実施された自己点検および内部監査室によるモニタリング（内部監査）を基に行っています。評価部門は、内部統制委員会の事務局を担い、自己点検の実施指示と実施確認、およびそこで発見された不備事項の是正指示と実施確認を行っていきます。私は事務局責任者として、全体の進捗管理と各部門・各子会社への内部統制システム運用の指導を担当しています。
内部統制の整備段階では事務局を中心とした取組みでよかったのですが、有効性評価の段階では子会社を含む全社的な取組みが必要です。その分苦労するところもありますが、多くの人たちと接する機会に恵まれ、学ぶことも多々あります。有効な内部統制システムを運用することにより、ステークホルダーの方々からの信頼を高め、企業価値の向上に貢献していきたいと思います。

内部統制評価グループ マネージャー　川添 治

Social
Performance

# 社会性パフォーマンス

私たちは、お客さま、従業員、株主さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに、心からご満足いただくこと。そして、その輪を広げいくことが企業価値の向上につながると考えています。今後もエスペックは、質の高い製品・サービスの提供など、さまざまな活動を通じて、ステークホルダーのみなさまとのより良い関係づくりに取組んでいきます。


21　お客さまとのかかわり
23　従業員とのかかわり
26　取引先さまとのかかわり
27　株主・投資家さまとのかかわり
29　地域とのかかわり

神戸試験所内風景

# お客さまとのかかわり

私たちは、常にお客さまの視点に立って、製品開発や営業、品質保証、アフターサービスなど
さまざまな活動を行うことで、お客さまの信頼と満足を追求していきたいと考えています。
また、エスペックに対するご意見やご要望、評価といった
お客さまの生の声を社内にフィードバックすることで、
課題の発見や今後の改善に役立てています。

## お客さまへの基本方針

エスペックは「エスペック行動憲章」において、お客さまの信頼と満足の追求を掲げ、すべての企業活動をお客さまの視点に立って行っています。「エスペック行動規範」においても、信頼性の高いモノづくりを掲げ、お客さまへの良質な製品・サービスの提供に取組んでいます。

## 製品・サービスの品質保証

### 品質方針

エスペックは、品質保証活動の中核を担う信頼性試験を行う環境試験器を提供しており、エスペック製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、エスペックの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命をはたす、より確かな製品とサービスの提供」を品質方針として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取組んでいます。

### 品質保証体制・活動

エスペックは、企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA（ESPEC Quality Assurance）と呼ばれる独自の品質保証体制を確立しています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」を取得し、2002年には2000年版に移行するなど、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2007年度は、基本方針に「品質の再構築(Quality Restructuring)」「品質ボトムラインの厳守」を掲げ、検査、評価、部品品質、故障解析に重点を置いた実効力ある品質改善に取組みました。

エスペックは、国際レベルでの品質保証体制と質の高い製品の提供により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

### QMC活動

エスペックは2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へ転換し、QMC（Quality Management Circle）活動として実施しています。これは、営業・スタッフ部門から開発部門にいたるまで、その対象を広げ、「全てはお客さまのために」という視点で、全社を対象とする全員参加型の小集団活動として展開しています。2007年度は186チームがさまざまなテーマで改善活動に取組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

### クリーンサービス活動

毎年新入社員研修の一環としてお客さまの要望調査および製品の無償簡易点検・清掃（クリーンサービス）活動を実施しており、お客さまから高い評価をいただいております。2007年度は東京、さいたま、名古屋、大阪の4拠点で約1ヶ月間の活動を実施しました。この成果は社内発表会を行い、各担当部門へフィードバックすることで、お客さまの声を反映させた製品・サービスの提供に努めています。

装置清掃風景

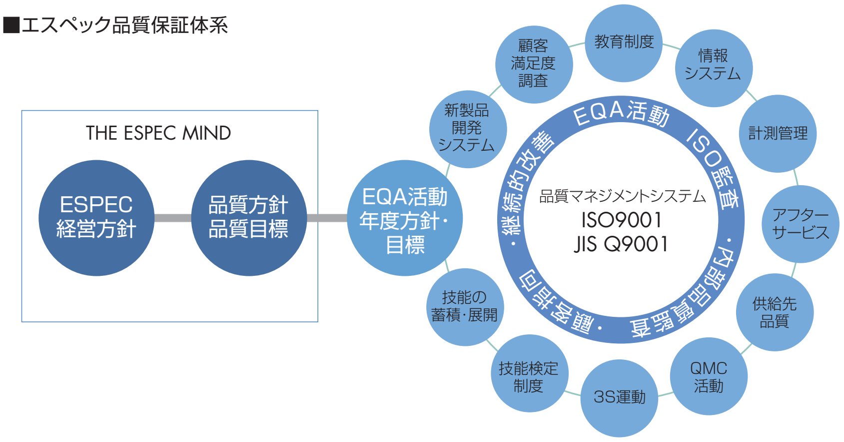
## サポート体制

### カスタマーセンター

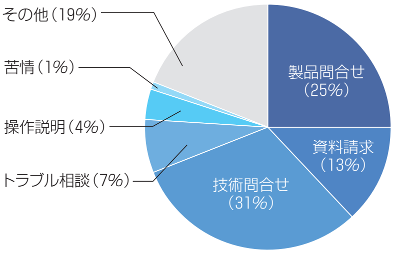
エスペックは、全国のお客さまや代理店さまのお問合せにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置しています。2007年度は、お客さまのお問合せにお応えするコールセンター機能と代理店さまとの契約に基づくセンターセールス機能に分け、段階的に体制を強化しています。

また、お客さまへの回答にかかる所要時

■エスペック品質保証体系




■2007年度　お問合せ内容
（総数：11,964件）



間の管理を開始するとともに、代理店さま向けの専用ホームページを開設し、在庫状況やさまざまな技術・イベント情報をリアルタイムに提供できるようになりました。

なお、製品仕様や技術問合せ、資料請求など、年間約12,000件について対応しました。

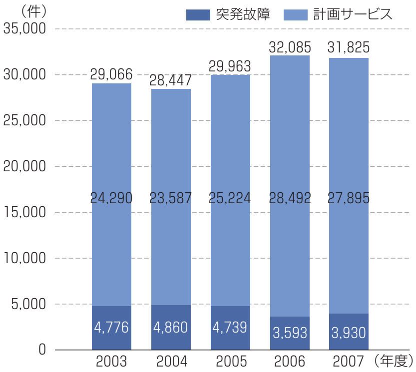
### アフターサービス体制

研究開発や生産工程においてご使用いただいているエスペック製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。そのため、エスペックでは、全国に22拠点ものサービスネットワークを構築。フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動で故障防止に努めるとともに、24時間フルタイムの技術対応サービスを行うなど、お客さまの故障に対して迅速に対応し、安心・安全をお届けしています。

また、サービスアンケートによるサービスマンに対する満足度の調査・分析を毎年行っており、2007年度は「訪問時間」「対応スピード」などの項目において高い評価をいただきました。この結果をもとに、サービスマンの教育や管理者による現場監査を行うなど、アフターサービスの向上に役立てています。

エスペックでは、製品突発故障の約90%を3日以内（2007年度）で修理対応しており、その迅速な対応はお客さまから高い信頼をいただいています。

■サービス処理件数




## お客さまへのソリューションの提供

### お客さまへの省エネ提案の実施

エスペックは、お客さまが求める新たな価値「ソリューション」の開発・創造に取組んでいます。2007年度は、お客さまが使用する試験設備（冷熱衝撃装置）の消費電力を最大30%削減する省エネシステムを開発し、提供しました。省エネによるランニングコストの低減と$CO_2$排出量を削減するシステムとして、多くのお客さまから高い支持と評価をいただきました。

### 受託試験サービス体制の充実

昨今、電子部品の高機能化・高密度化に加え、開発期間の短縮やコスト低減などにより、お客さまに代わって試験を行う受託試験の需要が拡大しています。エスペックは2006年度の豊田試験所に続き、2008年4月に首都圏最大級となる横浜新試験所を開設し、特殊試験にも対応できる設備を設置することで、自動車業界のお客さまからの依頼に対しても質の高いサービスをご提供できる体制を構築しました。

また、2008年1月には、振動試験メーカーとの業務提携により、環境試験と振動試験の受託試験依頼の窓口を一元化するなど、お客さまの利便性の向上に取組みました。

横浜試験所（横浜R&Dセンター内）

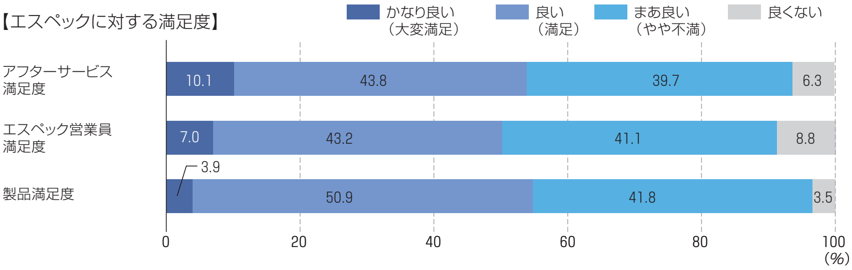
## 顧客満足度向上に向けて

### 顧客満足度調査の実施

お客さまの当社に対する評価を的確に把握するために、毎年、アンケート形式による顧客満足度調査を実施しています。2007年度は、前年度に当社製品をご購入いただいた1,000名のお客さまを対象に実施し、459名（有効回答率45.1%）と多くの方々からご回答をいただきました。

アンケートを通じていただいた、お客さま一人ひとりの声や評価に真摯に耳を傾け、みなさまにご満足いただける製品・サービスの提供を目指して、さらなる質の向上・改善に取組んでいきます。

■顧客満足度（2007年度調査）




Voice of the employee ｜ 社員メッセージ

### クリーンサービス研修を通して

クリーンサービスでは、毎年、新入社員がお客さまの会社に伺い、製品の点検・清掃を無償で行うことで、当社製品の実際の使われ方などを学んでいます。入社間もない私たち新入社員にとって、お客さまと接し、製品に触れる毎日は、新しい発見と驚きの連続でした。そして何よりも、ご意見やご要望などお客さまの生の声を直接聞くことができる、大変貴重で有意義なものでした。

現在、私は秘書業務に携わっており、お客さまと接する機会はあまりありません。しかし、「自分の仕事の先にはお客さまがいる」と常に意識し、業務に取組むよう心がけています。これも、クリーンサービスでの経験があったからこそだと思います。

総務人事部　総務グループ　**小林 奈津子**

クリーンサービス研修時
※左から2人目が私です

# 従業員とのかかわり

従業員とのかかわりには、二つの側面があります。
一つは、企業にとって従業員が社会に価値を提供する原動力であるということ。
もう一つは、従業員の人権を守り、能力を高め、より良いワーク・ライフ・バランスを提供することが企業の社会的責任であるということ。私たちは、これら二つの視点を大切にし、快適な職場環境の提供や人材開発など多様な取組みを進めています。

## 基本的人権の尊重

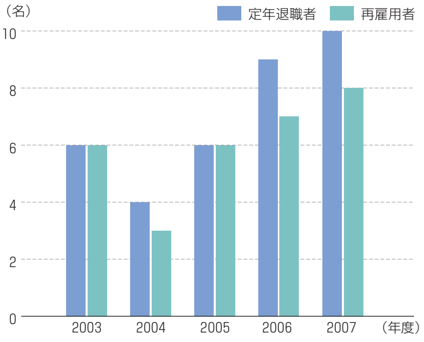
エスペックは、「エスペック行動憲章」において、基本的人権を尊重し、性別・年齢・国籍・人種・宗教・社会的身分・障がい等による差別的取扱、言動を一切行わない旨を定めるとともに、「エスペック行動規範」においても、プライバシーの保護や雇用における機会均等、児童労働・強制労働の禁止、人権侵害行為への対処などを明記し、社内研修を行うことで、役員・従業員の行動原則・行動基準として、周知徹底を図っています。また、セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口を設置し、差別行為の早期発見・是正に努めています。

## 多様性の尊重

### 定年退職者の再雇用

エスペックでは、全社員を対象とした定年退職者の再雇用制度を導入し、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。現在まで希望者については、ほぼ全員を再雇用しています。

■再雇用者数




### 障がい者の雇用

障がいのある方を7名雇用しています(2008年3月末現在)。障がいのある方を、その能力や適正に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取組みます。

### 女性の管理職登用

管理職は男性が141名、女性が4名です(2008年4月1日現在)。女性管理職比率は約3%ではありますが、管理職に登用する条件については、男女雇用機会均等法を遵守し、性別による格差は一切設けていません。そのため、少しずつではありますが、管理職を目指す女性が増加傾向にあります。女性管理職の増加が女性社員の士気向上とともに組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用を行い、同比率の引き上げを図っていきます。

## 人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。

また、高い生産性と品格を兼ね備えた良質な人材の開発・育成に取組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

## 人事制度

### 自己実現と働きがいのある人事制度

エスペックでは、「役割・成果主義」および「選択と自己責任」の2つを機軸として、役割と成果に応じたメリハリと透明性・公平性がある処遇システムにより「自己実現」と「働きがい」を創出する人事制度の構築に努めています。

### 社内公募制度

新規事業や戦略プロジェクト要員を社内で公募する制度で、ミッションと求める人材像、応募資格を社内ホームページに公示し、参画を希望する社員を広く募集しています。

■社内公募制度　過去の実績

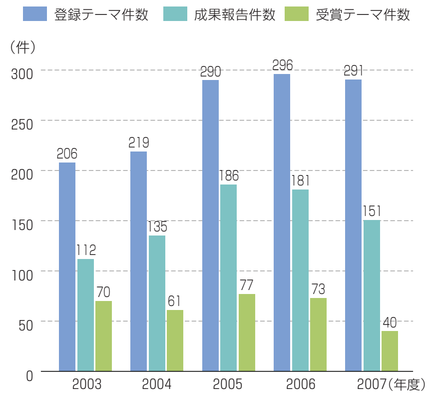
| | 募集人数 | 応募人数 | 登用人数 |
|---|---|---|---|
| 利用者数 | 55名 | 68名 | 28名 |

(2002~2007年度 制度実施計9回)

### チャレンジャー表彰制度

チャレンジ性の高いテーマにチームで取組み、より大きな成果を達成したチームを表彰する制度です。

■チャレンジャー表彰制度 過去の実績




### コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2008年3月末現在におけるコース選択状況は、「転勤あり(海外を含む)」が72%、「勤務地限定」が28%となりました。
今後も社員一人ひとりがより働きがいを感じることができる人事制度を目指し、さらなる改善・改革に取組んでいきます。

## 労使関係

エスペックの労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は702名、組合員比率は79.5%となっています(2008年3月現在)。

エスペックとエスペック労働組合は労働協約と相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取組んでいます。その一環として、毎月労使専門委員会を開催し、人事諸施策の内容と効果の検証、およびその深耕と水平展開を行っています。また、労使が対等な立

場で情報･意見交換を行う場として、毎月「労使協議会」を開催しています。

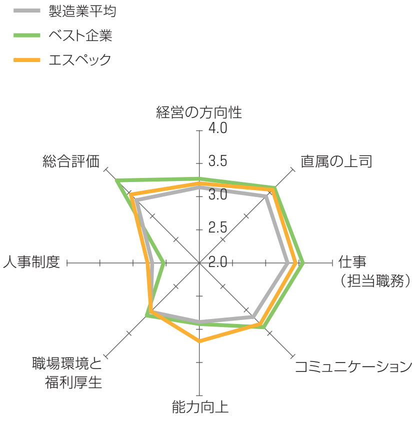
労使協議会

## 従業員満足度調査の実施

エスペックは、従業員満足度と経営品質の向上を目的として、毎年、第三者機関による従業員満足度調査を実施しています。

2008年度は前年度と同様、業界平均を上回る満足度を示しましたが、さらなる納得性と満足度の向上を目指し、各職場でのコミュニケーションの促進、総労働時間の削減、教育機会の拡大などに取組みました。今後も引き続き社員の意見を経営活動に取り入れ、経営層と社員間での高い信頼関係と風通しの良い社内風土の醸成に努めていきます。

■従業員満足度




## 快適な職場環境づくり

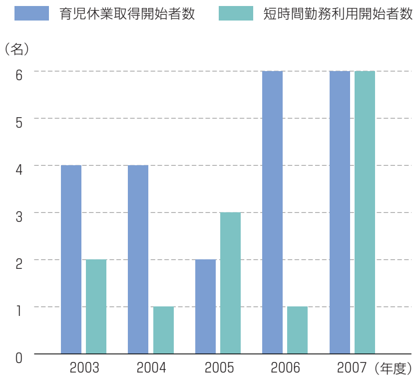
### ワーク･ライフ･バランスマネジメント

エスペックでは、2006年度より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える従業員に対しては、医師による面接指導を義務付けています。

また、家庭と仕事のバランスを考慮し、週に1回の一斉退社日の設定や、有給休暇計画取得制度の運用を行っています。

さらに、次世代育成支援策の一環として、子供を養育する社員が家庭と会社を両立できるように、正社員だけでなく契約社員やパート社員においても育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2008年3月末までに延べ52名の女性社員が育児休業を取得し、延べ22名が育児短時間勤務を選択しています。

■育児休業･短時間勤務制度利用者数




### 安全衛生活動

エスペックは安全衛生活動を遂行する上で関連するあらゆる法令を遵守することはもとより、安全衛生管理規定の制定や倫理的な見地を重視した自主的取組みを推進しています。

主要事業所毎に安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。

また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動により交通事故の撲滅に取組んでいます。

2007年度のエスペックにおける労働災害の発生件数は、0件/百万時間と全産業･製造業平均1.09件/百万時間を下回る結果となりました。

社会問題となりましたアスベストへの対応につきましては、全事業所のアスベスト使用状況と飛散性アスベスト使用箇所の飛散対策実施の調査･確認を行うとともに、以前製品に使用していたアスベスト含有断熱材の加工作業者を対象に特殊健康診断を実施※しました。

※ 診断結果にアスベストに起因する所見はありませんでした。

### メンタルヘルスケアの推進

近年社会的に増加している精神障がいへの対策として、従業員とその家族を対象としたメンタルヘルスケアを実施しています。WEB上のストレス診断で、毎月自己の状況を確認するほか、eラーンニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。また、電話と面接による相談窓口を設置しており、2008年4月からはWEB窓口も新たに開設しました。

また、ストレス診断の実施結果を、組織単位で分析･把握した上で、管理職向けの研修を実施し、快適な職場環境づくりに取組んでいます。さらに、休職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、うつ病などの精神障がい発症の予防･早期発見に努めるとともに発症時の専門的ケアを行っています。

メンタルヘルスケア支援サイト

■安全衛生活動の目標と過去3年間の実績

| 目標項目 | 目標 | 2005年度 | 2006年度 | 2007年度 |
|---|---|---|---|---|
| 労働災害(不休災害を除く) | 0件 | 1件 | 0件 | 0件 |
| 健康診断受診率 | 100% | 99% | 98% | 98% |
| 車、バイク、自転車による人身事故 | 0件 | 6件 | 8件 | 4件 |
| 車およびバイクによる自責事故 | 0件 | 21件 | 35件 | 28件 |

### 福利厚生の充実

#### 選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」の導入

社員の多様なニーズへの対応や、より公平性のある福利厚生サービスの提供を目的として、2007年度から自身で必要な福利厚生サービスを選択することのできる制度「カフェテリアプラン」を導入しています。社員は、育児や介護、学習、スポーツ、旅行、グルメなど多様なメニューから割引サービス等を受けることができます。

#### 資産形成の支援

財産形成貯蓄制度では、各従業員の年間積立額の2%を奨励金として会社より支給しています。
また、従業員持株会では、会員の拠出金に対して15%の奨励金を会社より支給するなど従業員の資産形成を支援しています。

#### クラブ・レクリエーション活動の推進

従業員の体力増進と文化的嗜好の向上を目的として、クラブ活動を支援するとともに、従業員間の親睦を目的としたレクリエーション活動を実施しています。レクリエーション活動では、事業所ごとにお祭りなどが開催されており、社内コミュニケーションの向上に役立てられています。

秋祭り

## 人材開発（教育プログラム）

エスペックの人材開発の基本は、社員の自ら学ぶ意志に基づく能力開発にあります。社員の学ぶ意志を尊重し、その実現のために、教育機会の提供や制度整備などの支援を積極的に行います。そして社員の自己実現のニーズと会社として求める人材像の両方を満足するWIN−WINの関係に基づく人材開発を目指しています。

能力開発の指針として、職位や職能において必要とする能力を「求める人材像とスキルマップ」として明確に定義し、その習得と向上を図る教育プログラムを運用しています。この教育プログラムは人材開発委員会において、継続的に見直しを行い内容の改善を図っています。あわせて、公認資格取得を支援する「推奨資格取得支援制度」や語学力向上を目的とする「外国語学習支援制度」を導入するなど、教育機会の提供だけでなく費用面での支援の充実にも努めています。

なお、2007年度は、すべての職能に共通する教育として30講座を開催し、延べ1,007名が受講しました（新入社員・中途入社者教育を除く）。

■教育体系の概要

■すべての職能に共通する教育

| 分　類 | 目的・狙い | 対　象　者 |
|---|---|---|
| 新入社員（中途入社者）教育 | 事業内容や組織、社内規定・ルールなど社員として最低限把握しておくべき知識を短期間で集中的に習得する | 新入社員（中途入社者） |
| ベース教育 | 職能に関わらず、業務の質を高めるだけでなく、個人としても社外からも評価されるような広範かつ高レベルな知識・能力を習得する | 全社員（一部免除あり） |
| マネジメント教育 | マネジメント能力を中心に管理者として習得すべき知識・能力を習得する | 管理職・リーダー |
| 自己啓発教育 | 当社業務に特に関わりの深いテーマに絞って、より専門的な知識を習得あるいは再確認する | 希望者 |

Voice of the employee　社員メッセージ

### チャレンジャー表彰制度「社長賞」の受賞

私たちのチームは、チャレンジテーマとして、リピート顧客の増加による中古品販売・レンタルの売上拡大を目標に掲げました。この目標達成に向けた取組みは、お客さまに「各種提案をする」「迅速で、きめ細やかな対応をする」など地道な活動が主ですが、この積み重ねにより成果を上げることができ、この度、最も評価の高い「社長賞」を受賞することができました。受賞は思いがけないことでしたが、「営業と現場、上司と部下、そして会社間に強い連携(きずな)と信頼感」があれば高い目標も達成できることを実感しました。また、高い目標を掲げてその達成に向け努力し、知恵を出すことは自分自身の成長にもつながるため、これからもチャレンジを続けていきたいと思います。

エスペックテストセンター（株）営業推進部 レンタル・リセールセンター センター長 **大嶋　哲朗**

# 取引先さまとのかかわり

取引先さまは大切なビジネスパートナー。
エスペックでは、コンプライアンスの徹底を目的とした社内教育や内部監査の実施はもとより、
「エスペック共栄会」の運営、優良取引先表彰の実施などさまざまな活動を通じて、
お取引先さまとの価値観の共有化と信頼関係の醸成を図り、
相互発展できる良好な関係づくりを目指しています。

## 基本方針

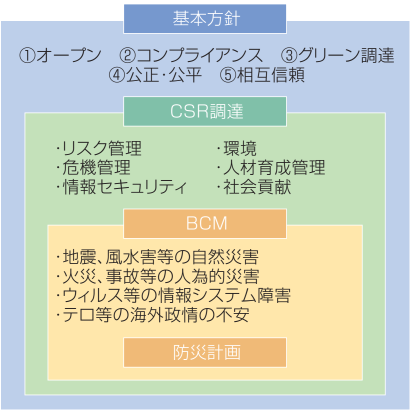
エスペックは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を遵守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

## 取引先さまとのより良い関係を目指して

### 「下請代金法」への対応

エスペックでは、資材調達において「下請代金遅延等防止法（下請代金法）」の遵守を徹底することを目的としたさまざまな取組みおよび社内教育を行っています。

2007年度は、社内独自に作成した下請法チェックリストの見直しとこれに基づく内部監査を3回実施し、懸案事項に対し必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を行ってきました。




### 「エスペック共栄会」の運営

エスペックでは1981年より取引先さまとエスペックとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、42社（2008年3月末現在）の取引先さまに参画いただいています。この「エスペック共栄会」では、経営やコスト戦略について学ぶセミナーや工場見学などを年4回実施しているほか、QCサークル活動に関する勉強会を毎月実施するなどさまざまな活動を展開しています。

また、年1回開催される総会において、エスペックの経営方針発表を行い、当社の方向性について取引先さまにもご理解いただき、相互発展していくことを目指しています。

エスペック共栄会総会

### 「エスペック優良取引先表彰制度」の実施

エスペックでは多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表することを目的に、「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2007年度は、審査対象を国内外すべての取引先さまへと拡大し、社長賞1社・優秀賞2社、そして特別賞として初めて海外取引先さま1社を表彰させていただきました。

### グリーン調達の実施

エスペックは2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「環境活動評価プログラム（エコ・アクション21）」の認証取得またはこれらの簡易版「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会・現地指導による活動支援を行っています。

2007年度は仕入高の80%を占める主要仕入先100社に加え、その他の取引先さまにも活動を行い、合計109社がエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

グリーン調達認定式

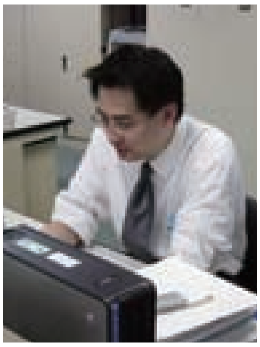
---

**Voice of the employee** | 社員メッセージ

### 資材調達における、BCM（事業継続マネジメント）の取組み

エスペックでは、地震や火災といった自然災害や取引先さまのトラブルなど、不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービス提供の影響を最小限にするための取組みを開始しました。2007年度、資材調達部では、当社の資産である金型を貸与している60社の取引先さまの内20社を対象として、現物の確認と実際に部品が製造されている現場の実態調査を行いました。最終的には、当社お取引先さまや関係加工先さまのロケーションマップおよび緊急連絡先一覧を作成していきたいと思います。これにより、不測の事態が生じた際、関係取引先さまをいち早く把握・対応し、安定調達が継続して行える体制を構築することで、お客さまへのサービス提供を継続して行える仕組みづくりに貢献していきたいと考えています。

資材調達部 業務管理グループ リーダー **高島 昭泰**



# 株主・投資家さまとのかかわり

エスペックでは株主・投資家さまに適正な企業評価をいただくため、
迅速かつ適切な情報開示、会社説明会の開催、各種IRツールの充実などに積極的に取組むことで、
良好なコミュニケーションの醸成に努めています。
そして、これらのコミュニケーションを通じていただいた貴重なご意見を経営にフィードバックすることで、
さらなる企業価値の向上に取組んでいます。

## 基本方針「IRポリシー」

エスペックは「良き社会の一員」として、エスペックのあらゆるステークホルダーとのより良い関係の構築(価値交換性の向上)や社会的責任を果たすことを企業理念として掲げています。株主・投資家さまとのコミュニケーションをより良好に行うためのIR活動におきましても、その理念を踏まえ、「IRポリシー」として明文化し、活動の規範として周知徹底を図っています。

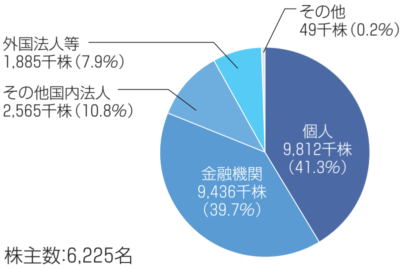
■IRポリシー(抜粋)

＜目的＞
当社のIR活動は、株主や投資家を含む当社のあらゆるステークホルダーのみなさまに、当社に対する理解を深めていただき、信頼関係を構築することで、適正な企業評価をいただくことを目指しております。また、市場の評価・意見を当社の経営活動に活かすことで、経営の質を高めてまいります。

＜基本姿勢＞
迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、業績の好不調に関わらず首尾一貫して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーにお伝えすることを基本姿勢としております。

## 株主構成

エスペックの株主構成としては、個人株主さまが最も多く、次に金融機関、その他国内法人の順となっています(2008年3月末現在)。2007年3月末時点に比べ、個人株主さまが6.6ポイント増加し、一方、外国法人等が8.6ポイント減少しました。




株主数:6,225名
発行済株式数:23,750,394株 (2008年3月末現在)

## 株主・投資家さまとのコミュニケーション

### 情報開示の方針・体制

エスペックは、会社法・金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。同規則に該当しない情報についても、エスペックを理解していただく上で役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

エスペックはそれを遵守するための社内体制として、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者(IRスポークスマン)を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を推進しています。

### 開かれた株主総会の実現に向けて

エスペックは、株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。2007年度は6月26日に開催し、145名の株主さまにご参加いただきました。総会終了後には、株主懇談会およびショールーム見学会を実施し、当社の事業内容や経営戦略などについてのご理解を深めていただきました。

株主総会後のショールーム見学会

### 機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と執行役員が出席し、業績や中期経営計画の進捗などについて説明しています。また、個別ミーティングにつきましても東京・大阪を中心に随時行っており、2007年度は約160回実施しました。

決算説明会

### 個人投資家向け会社説明会

エスペックは、みなさまにとって、より公平で公正な企業でありたいと考えており、個人投資家さまに対しましても、会社説明会を実施しています。2007年7月には、大阪において開催し、約60名の個人投資家さまにご参加いただきました。

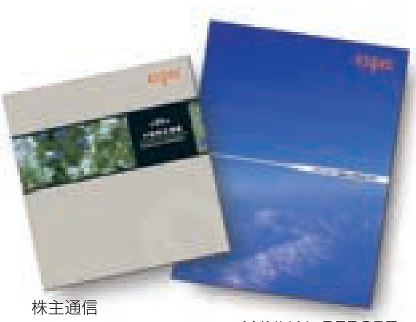
参加者アンケートでは、当社の事業内容や経営戦略などについて、高い評価をいただきました。

個人投資家向け会社説明会

### IRツールの充実

株主通信やアニュアルレポート、ホームページのIRサイトといったIRツールの充実に継続的に取組んでいます。IRサイトでは、決算説明会、個人投資家説明会、株主懇談会の

資料や各種財務データなど、みなさまが当社を理解するのに役立つ情報を積極的に掲載しています。また、2007年度からは、海外投資家さま向けに、決算やニュースリリースなどの情報をタイムリーにお知らせする情報配信活動を新たに開始しました。



株主通信　ANNUAL REPORT

IRサイト

http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html

エスペックIRサイト

携帯電話用IRサイト

http://m-ir.jp/c/6859

QRコード

カメラつき携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、携帯電話用IRサイトにアクセスできます。

## 社外からの評価

### IRサイトの受賞

エスペックのIRサイトは、大和インベスター・リレーションズ社が主催する「インターネットIRサイト優秀企業賞」を4年連続で受賞するとともに、日興アイ・アール社が主催する「全上場企業ホームページ実態調査」において、数ある上場企業の中から最優秀サイト（総合ランキング）として選定されるなど、非常に高い評価をいただいています。

また、携帯電話用IRサイトの運用も行い、投資家さまの利便性の向上を図っています。

Internet IR 優 秀 企業賞 2008 Daiwa Investor Relations ®

企業ホームページ 最優秀サイト 2007 日興アイ・アール 総合ランキング

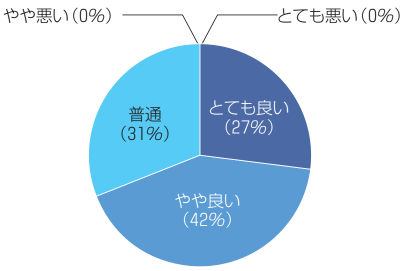
### 株主・投資家さまアンケート

エスペックは、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付時にも株主さまを対象としたアンケートを実施しています。株主通信のアンケート結果につきましては、中間期の株主通信において報告しています。

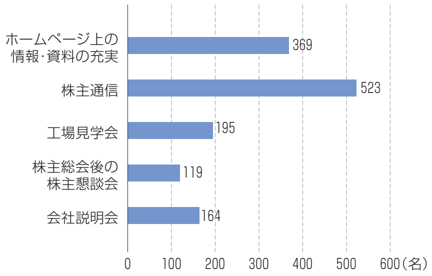
■株主アンケート結果（2007年6月実施）

ご回答者総数：1,215名（男性：72% 女性：28%）

株主通信の評価




■今後充実して欲しいIR活動（複数回答可）



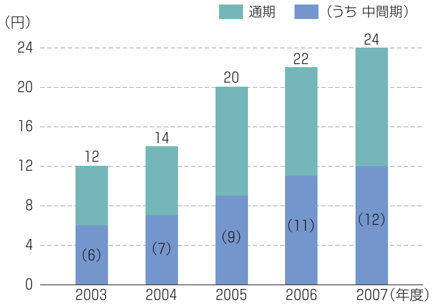

### 市場評価のフィードバック

エスペックでは、会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などを、毎月「IR月報」としてまとめ、発行しています。この「IR月報」は執行役員会で報告を行っており、市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

## 株主さまへの還元

エスペックは、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題と認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主利益向上の基本であると考えています。2007年度の年間配当金は、創業60周年の記念配当2円を加えた、1株あたり24円となりました。

■1株あたり配当額の推移




※2003年度は、記念配当（株式上場20周年記念）2円を含む

※2007年度は、記念配当（創業60周年記念）2円を含む

V oice of the employee ｜ 社員メッセージ

### 株主懇談会の開催

当社は2003年から株主総会後に、株主懇談会や本社展示品を活用したショールーム見学会を実施しています。2007年は株主懇談会において当社の事業内容や経営戦略、さらには環境経営の取組みについてご説明するとともに、ショールーム見学会において当社製品を実際にご覧いただくことで、当社に対するご理解を深めていただきました。株主さまへのアンケートでは、懇談会の印象について「良い」が80%を越えるなど、大変高い評価をいただきました。今後も株主さまとのコミュニケーションを通じて、より良い関係の構築に取組んでいきたいと思います。

経営企画室 IR・広報グループ リーダー　寺林 巧

# 地域とのかかわり

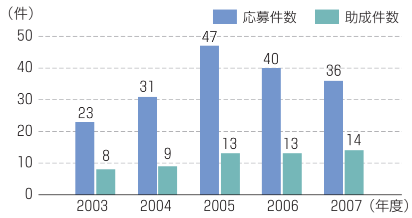
エスペックは「良き社会の一員」として、地域との共生や社会貢献活動に取組んでいます。
職業体験学習や社会工場見学の受け入れ、ボランティア活動、
地域清掃活動などを通じた地域との交流・相互理解に取組むとともに、
公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を通じて、
地球環境の保護・保全に向けた支援を行っています。

### エスペック地球環境研究・技術基金

エスペックは創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し、資金援助を実施しており、これまでに78団体に対し、総額4,100万円の助成を行いました。
また、2008年度からは、対象範囲を緑化の教育・啓発にも拡大し、助成金も増額しました。

■公益信託 応募・助成件数




### 職業体験学習・社会工場見学の受け入れ

エスペックでは、職業体験学習や社会工場見学の受け入れを行っています。2007年度は、エスペックミックにおいて、職業体験学習として地元の中学校4校より17名の生徒を受け入れました。職業体験では、子供たちに働く喜びや大変さの理解、環境保全への意識向上を目的に、植物苗の生産作業や植物生産圃場での維持管理作業などを行っていただきました。

また、福知山工場においても、地元高校や専門学校などからの社会工場見学を受け入れており、計3件、95名の方にご見学いただきました。

中学生職業体験学習

### ボランティア活動

エスペックでは毎年、大阪府肢体不自由者協会の協力を得て、労働組合の上部団体JAMの主催による社会奉仕活動に社員を派遣しています。この活動は、大阪府全域から肢体の不自由な方々をお招きして、遊園地や水族館、海洋クルーズ等で、安全でかつ楽しい一日を過ごしていただくための手助けを行うもので、1988年以来、毎年約80名の方々を招待しています。ささやかな活動ですが、幅広く市民と協力し合って、積極的に継続していきたいと考えています。

### 地域清掃活動

エスペックは、世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスペック環境ウィーク」と定め、事業所周辺の通勤路や近隣公園などで、地域清掃活動を実施しています。

2007年度は、全国において延べ638名の従業員が参加し、約5tのゴミを回収しました。

地域清掃活動

### 「こども110番の家」へ協力

「こども110番の家（ピーポくんの家）」とは、児童が身の危険を感じたときに駆け込み、援助を求められる民家や商店のことです。昨今の子どもを狙う悪質な犯罪防止のため、各地域で行われている取組みで、当社の一部の事業所、関係会社でこの取組みに協力しています。

「こども110番の家」告知板

## Voice of the employee｜社員メッセージ

### 職業体験学習の受け入れ

私は、エスペックミックで植樹に関わる事業、自然再生に関わる調査業務を担当しています。当社では、地域への貢献活動の一環として地元中学生の郷土学習や職業体験の受け入れを行っており、私はそのサポート役を務めています。職業体験では、植樹で使用する樹木の苗づくりをはじめ、植物生産に関わるさまざまな業務を行っていただきました。生徒たちからは、初めは慣れない野外の肉体作業に戸惑いや大変さを感じたものの、最終的に楽しかったという感想をいただいています。中学生にとっては「自然再生事業」といってもなかなか理解が難しいかもしれませんが、このような経験を通じて、仕事の大切さを学ぶとともに、身近な植物や自然に関心を持つきっかけになればと思います。

エスペックミック（株）環境創造事業部　**吉野 知明**

ビオトープ「バンビの里」（神戸R&Dセンター内）

# Environmental Performance

# 環境パフォーマンス

温暖化や砂漠化などの環境問題が地球レベルで進行しています。環境悪化は人類の存続に直結するものであり、次世代のために環境を守ることは、今を生きる私たちの責務となっています。エスペックは「単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」という環境宣言に基づき、環境保護・保全・改善に取組んでいます。


31　環境マネジメント

33　環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」

35　グリーンプロダクト（環境に配慮した製品とサービス）

37　グリーンプロセス（環境に配慮した工程）

40　グリーンマインド（環境教育）

41　グリーンアクション（社会貢献）

43　物質フロー

44　実績データ

45　環境会計

# 環境マネジメント

エスペックでは、環境への取組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、
継続的に環境マネジメントに取組んでいます。
現在進めている第3次環境中期計画
「エスペック2010グリーンプラン」（2006年度～2010年度）では、
$CO_2$排出量10％削減（1990年度比）などの高い目標を掲げ、全社での取組みを進めています。

## 環境経営の基本方針

エスペックは、「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。」という環境宣言に基づいて、真摯に環境保護・保全・改善に取組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、これ以降、世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

2008年度は、基本方針の1つ目に「製品・サービス」を掲げ、これを軸にした方針構成に変更しました。

### エスペックグループ全社環境基本方針

【環境宣言】

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

【基本理念】

エスペックグループは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
環境試験装置、電子デバイス装置などを製造、販売及びメンテナンスしている企業グループであることを踏まえ、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。

【基本方針】

1.製品のライフサイクル全ての段階において、環境負荷低減と価値の向上を実現する技術と製品及びサービスを開発し、提供します。
2.省エネルギー活動、自然エネルギーの活用、フロン対策などを通じ地球温暖化防止に努めます。
3.有害物質管理を行い、環境への汚染防止に努めます。
4.排出物を削減するとともにお客様に対してリサイクルシステムを提案し、循環型社会の実現に寄与します。
5.資材調達における環境負荷の低減を徹底するためにグリーン調達を行います。
6.地球環境保全活動への支援及び積極的参加を通じ、社会の環境保全に貢献します。
7.従業員とその家族・取引先および市民を対象に環境教育や啓発活動を実施します。
8.環境関連法規制ならびにグループが同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、
環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

―この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します―

2008年4月1日
エスペック株式会社
代表取締役社長
進 信義

## 環境管理推進体制

エスペックは、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、主要9事業所で活動してきました。また、2003年度からは、環境ガバナンスの強化を図るため、国内グループ5社28事業所による全社一括活動に移行しました。2008年度からは、右記の3社における31事業所で全社一括活動を進めると同時に、右記の4社5事業所では、単独で環境マネジメントシステム活動を進めています。

全社一括取得 登録証

■全社一括取得の対象範囲（2008年度は下記3社31事業所が対象）

| |
|---|
| エスペック株式会社 |
| エスペックエンジニアリング株式会社 |
| エスペックテストセンター株式会社 |

■単独取得の対象範囲

| 取得年月日 | 事業所 |
|---|---|
| 2000年12月 1日 | 広州愛斯佩克環境儀器有限公司 |
| 2003年 3月12日 | エスペックテクノ株式会社 |
| 2004年 7年 8日 | エスペック九州株式会社 大分支社 |
| 2004年 8月 4日 | エスペック九州株式会社 本社 |
| エコアクション21取得事業所 | |
| 2005年 4月27日 | エスペックミック株式会社 |

エスペックテクノ（株） 登録証

エスペック九州（株）本社 登録証

エスペックミック（株）
エコアクション21 認証・登録証

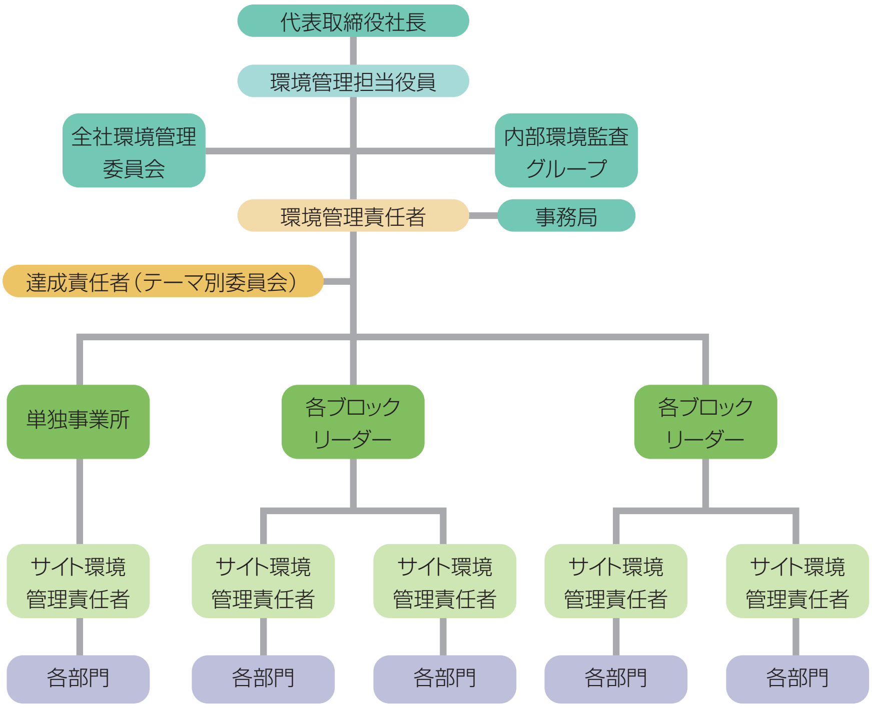
## 全社環境管理委員会

エスペックでは、環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。

2008年度からは、$CO_2$削減などの重点テーマに応じた5つの委員会体制を立ち上げました。この委員会では、目標達成責任者を中心に施策の立案、予算の適正配分の検討など、目標達成へ向けた取組みの強化を行っています。

全社環境管理委員会風景

■環境マネジメント活動の組織図（イメージ図）



## 第3次環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」

2006年、エスペックは、2010年度へ向けた取組みの指標として、第3次環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」を定めています。主なテーマとして、「地球温暖化の防止」、「資源循環」、「有害物質削減」、「社会貢献」の4つのテーマを掲げ、その実現に向け、4つの取組み「グリーンプロダクト」、「グリーンプロセス」、「グリーンマインド」、「グリーンアクション」を進めています。

| 重点テーマ | 「エスペック2010グリーンプラン」2010年度目標値 |
|---|---|
| 地球温暖化の防止 | 1990年度比、$CO_2$排出量10%削減 |
| 資源循環 | ①ゼロエミッション100%　②使用済み製品回収率50% |
| 有害物質削減 | ①製品:新規開発製品のRoHS対応100%完了　②部品:標準製品群を対象にAランク(社内基準)の市販部品を100%対応 |
| 社会貢献 | 社会貢献度200%(2005年度:100ポイントの2倍/独自指標) |

## 2007年度 目標と実績

◎:大きな成果　○:計画に沿った成果　△:計画を下まわる、または計画から外れる成果

| No. | エスペックグループ環境目的(2007年度〜2010年度) | 2007年度環境目標と実績 | 評価 | 重要テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 環境配慮製品、環境配慮モジュールを開発します | 〈目標〉植物由来プラスチックの使用検討<br>〈実績〉継続調査中 | △ | 地球温暖化の防止 |
| | | 〈目標〉省エネ製品、省エネモジュールの開発<br>〈実績〉予定通り進捗 | ○ | 地球温暖化の防止 |
| | | 〈目標〉ノンフロン製品・モジュールの開発<br>〈実績〉検討実施中 | △ | 地球温暖化の防止 |
| | | 〈目標〉グリーンコンセプトチャンバーの企画<br>〈実績〉予定通り進捗 | ○ | 地球温暖化の防止、資源循環、有害物質削減 |
| 2 | RoHS対応(※2) 2009年度までに、<br>①製品:新製品は100%対応します<br>②部品:標準5製品群(プラチナスシリーズ、冷熱衝撃装置TSA、小型環境試験器、パーフェクトオーブン、ビルドインチャンバー)を対象に、Aランクの市販部品を100%対応します | 〈目標〉新機種シリーズで市販部品80%RoHS対応<br>〈実績〉予定分未達成 | △ | 有害物質削減 |
| 3 | 環境配慮製品を年間5,000台以上販売します | 〈目標〉4,500台以上販売<br>〈実績〉4,900台以上 | ◎ | 地球温暖化の防止 |
| 4 | お客さま環境満足度の向上を図るため、お客さまの声をフィードバックします | 〈目標〉情報収集100件以上、改善提案10件以上<br>〈実績〉情報収集105件、改善提案29件 | ◎ | 地球温暖化の防止、資源循環、有害物質削減 |
| 5 | 使用済み製品の回収率を50%以上にします | 〈目標〉広域認定制度運用開始。使用済み製品回収率10%<br>〈実績〉広域認定の認可受理。製品回収ルートを整備中 | △ | 資源循環 |
| 6 | 使用済み製品のリセールを促進します | 〈目標〉中古製品販売額を前年度比3%向上<br>〈実績〉30%向上 | ○ | 資源循環 |
| 7 | 国内全事業所において、排出物リサイクル率100%を達成し、ゼロエミッションを実現します | 〈目標〉国内8事業所でゼロエミッション達成<br>〈実績〉国内13事業所達成 | ◎ | 資源循環 |
| 8 | グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を90%以上とします | 〈目標〉仕入高上位100社+「環境影響の大きい」5社をエスペックグリーン調達取引先認定<br>〈実績〉合計109社を認定 | ◎ | 資源循環、有害物質削減 |
| 9 | グリーン購入比率の向上を図るため、文具のグリーン購入比率を99%以上とします | 〈目標〉文具のグリーン購入比率95%以上<br>〈実績〉93% | △ | 資源循環、有害物質削減 |
| 10 | $CO_2$の排出量を1990年度比10%削減します(※1)<br>(2006年度:5,300t→2010年度:3,300t) | 〈目標〉生産部門の省エネ活動で100t削減<br>〈実績〉91t削減 | △ | 地球温暖化の防止 |
| | | 〈目標〉事務部門のガソリン・電力削減で100t削減<br>〈実績〉106t削減 | ◎ | 地球温暖化の防止 |
| | | 〈目標〉自然エネルギーの活用で240t削減<br>〈実績〉40t削減 | △ | 地球温暖化の防止 |
| 11 | 物流部門における$CO_2$を20t削減します | 〈目標〉モーダルシフトで10t削減<br>〈実績〉28t削減 | ○ | 地球温暖化の防止 |
| 12 | 国内外で植樹を実施します | 〈目標〉海外植樹の候補地選定、国内植樹契約締結<br>〈実績〉海外植樹中止。国内で森林保全活動実施 | △ | 地球温暖化の防止、社会貢献 |
| 13 | 環境マネジメント支援を実施します<br>(ISO14001、エコアクション21、エスペックエコスタンダード)<br>①グリーンパートナー(取引先・代理店)の育成<br>②取引先への環境マネジメント支援に伴う$CO_2$削減100t | 〈目標〉取引先さま環境マネジメント支援で$CO_2$排出量10t削減<br>代理店2社以上+自治体のEMS規格支援<br>〈実績〉2社指導実施。$CO_2$削減量1.2t | △ | 地球温暖化の防止、社会貢献 |
| 14 | 従業員のみならずご家族の方へ向けて環境啓発活動を推進し、$CO_2$を35t削減します | 〈目標〉家庭への環境啓発活動で$CO_2$排出量20t削減/ルール作りと改善実施<br>〈実績〉エスペックエコチャレンジファミリー制度として運用開始<br>$CO_2$排出量は0.5t削減 | △ | 地球温暖化の防止、社会貢献 |
| 15 | 神戸R&Dセンターの森とビオトープを生かした環境教育の空間の充実を図ります | 〈目標〉環境大会等を通じた社員教育で、200名以上に環境啓発を実施<br>〈実績〉266名参加 | ◎ | 社会貢献 |
| 16 | 宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボを生かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者を500名以上誘引します | 〈目標〉施設来訪者400名以上<br>〈実績〉490名 | ◎ | 社会貢献 |
| 17 | 全事業所での紙・ゴミを削減します | 〈目標〉社内での事務用紙50万枚削減<br>〈実績〉23.5万枚削減 | △ | 資源循環 |
| | | 〈目標〉コミュニケーションツール<br>(取扱説明書・仕様書・サービスマニュアル)用紙50%削減<br>〈実績〉47%削減 | △ | 資源循環 |

※1:適用範囲は、国内エスペックグループISO14001全社一括取得の企業から、受託試験事業を除いたものとする。
※2:2008年3月現在、当社製品はRoHS規制対象製品ではありません。

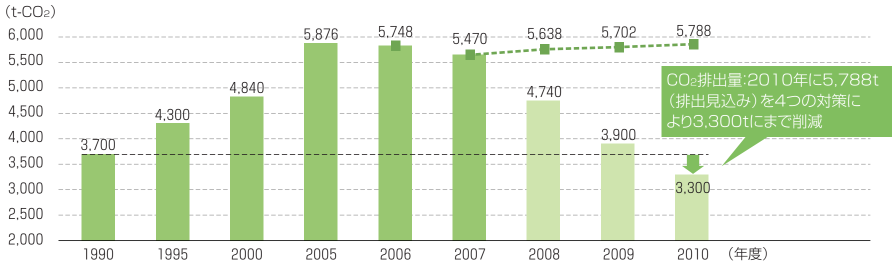
## $CO_2$削減のための取組み

環境中期計画「エスペック2010グリーンプラン」の中で最も力を入れているのが、地球温暖化の防止です。事業の拡大に伴い、エスペックの$CO_2$排出量(※1)は、1990年度の3,700tから、2007年度の5,470tへと1.5倍に増加しています。さらに、当社は今後も一層の成長を計画しており、現状のままで試算すると、2010年度には5,788tへの増加が予想されます。

エスペックは、2010年度に1990年度比10%削減を目標に掲げており、自らが下記の改善活動と自然エネルギーの活用などをミックスして、3,300tまで大幅に削減する計画です。

①ソーラー発電等の自然エネルギーの活用
②省エネ設備、ハイブリッドカー等の高効率設備の導入
③生産工程の見直し
④排出権など京都メカニズムの採用

**■環境中期計画（$CO_2$排出削減計画）**




※最新データに基づき再計算を行った結果、昨年のグラフから一部を変更しています。

## 2008年度 環境目的・目標

| | No. | 目的・目標テーマ | 2010年度環境目的 | 2008年度環境目標 | 重要テーマ |
|---|---|---|---|---|---|
| グリーンプロダクト | 1 | 環境配慮製品開発★ | LCA手法を活用し、地球温暖化対策、資源循環対策の環境配慮技術の開発を行います | グリーンコンセプトチャンバーを企画します<br>E−ファクターを検討します<br>環境配慮開発設計ガイドラインを改訂します | 地球温暖化の防止、資源循環、有害物質削減 |
| | 2 | 環境配慮製品拡販 | 環境配慮製品を年間5,000台以上販売します | 環境配慮製品を4,700台以上販売します | 地球温暖化の防止、社会貢献 |
| | 3 | お客さまの声 | お客さま環境満足度の向上を図るため、お客さまの声をフィードバックします | お客さまから環境に関する声を110件以上収集し、10%以上を改善提案としてフィードバックします<br>そのうち、2件を実施件数とします | 地球温暖化の防止、資源循環、有害物質削減 |
| | 4 | 製品有害物質管理★ | 新製品におけるRoHS対応を徹底します | 新製品のためのRoHS対応部品の充実と従来共通部品のRoHS対応を推進します | 有害物質削減 |
| グリーンプロセス | 5 | $CO_2$削減★ | $CO_2$の排出量を1990年度比10%削減します（対象:生産部門・事務部門） | $CO_2$排出量を前年度比500t削減します | 地球温暖化の防止 |
| | 6 | 製品リサイクル★ | 使用済み製品を500台以上回収します | 広域認定制度に基づき使用済み製品を200台回収します | 資源循環 |
| | 7 | ゼロエミッション | 国内全事業所において、ゼロエミッション化を実現します | 18事業所でゼロエミッション化を達成します | 資源循環 |
| | 8 | グリーン調達 | グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を90%以上とします | グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を82%以上とします | 資源循環、有害物質削減 |
| | 9 | 全事業所の紙・ゴミ削減 | 全事業所での紙・ゴミを削減します | 事務用紙購入量を前年度比5%削減します<br>排出物量を前年度比5%削減します | 資源循環 |
| グリーンアクション | 10 | 取引先・家庭のグリーン支援 | 社外に対して環境啓発を実施します<br>①環境マネジメント支援を通じてグリーンパートナー（取引先・代理店）を育成します<br>②従業員の家庭に対して環境啓発活動を推進します | 取引先さま新規3社を支援します<br>家庭への環境啓発活動を新規30件支援します | 地球温暖化の防止、社会貢献 |
| グリーンマインド | 11 | 神戸R&Dセンター環境啓発 | 神戸R&Dセンターの森とビオトープを生かした環境教育の空間の充実を図ります | 環境イベント等を通じた社員向け教育の実施で、300名以上に環境啓発を行います | 社会貢献 |
| | 12 | 宇都宮テクノコンプレックス環境啓発 | 宇都宮テクノッコンプレックスのフューチャーラボを生かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者を500名以上誘引します | 宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボの来場者を425名以上誘引します | 社会貢献 |
| | 13 | 新エネルギー啓発★ | ソーラーカーおよび燃料電池車のラリー参戦を通じて、新エネルギーについての啓発を行います | ソーラーカーラリーへの参戦を通じて新エネルギー啓発を実施します | 社会貢献 |

★の目標は、重要テーマとして、2008年度から委員会体制による活動の強化を行っています。

# グリーンプロダクト（環境に配慮した製品とサービス）

エスペックの主力製品「環境試験器」は、低温から高温までさまざまな環境をコントロールするために
エネルギーを消費しており、その環境負荷は小さいものではありません。
エスペックは「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、
製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から
環境配慮製品の開発・提供を進めています。

## エスペック製品の環境的側面

エスペックの主力製品「環境試験器」は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されており、人工的に環境を再現するのに、HFCフロンを用いた冷凍回路と電気ヒーターとのバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験器が地球環境に与える影響は、

- 運転時の電力消費による地球温暖化
- HFCフロンが大気放出された場合の地球温暖化
- 製品廃棄時の廃棄物処分場圧迫

などが挙げられ、改善点を多く抱えています。

## 環境配慮製品創出への取組み

### 製品開発の基本的な考え方

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、お客さまや社会のお役に立つ製品、安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発することを基本としています。

**開発設計ガイドラインの主な内容**

- 製品ごとの環境目標値
- 資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
- 「環境デザインレビュー」の実施指示
- 経営層による環境面評価、量産、出荷可否判断
- 使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定

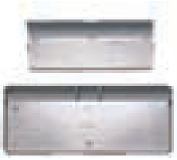
2006年度は、LCAソフトを導入し、現行主力製品の環境への負荷の評価を開始しました。2007年度は、製品の環境効率を示す指標として「E-ファクター」を立案しました。これらの取組みを今後の製品開発へ生かしていく予定です。

### リサイクルへの取組み

金属でできた外装と内槽との間にウレタン断熱材を施した従来製品は、解体が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスペックでは開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキング

などを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。2007年度には、使用済み製品の回収リサイクルへ向け広域認定制度の認可を受けています。

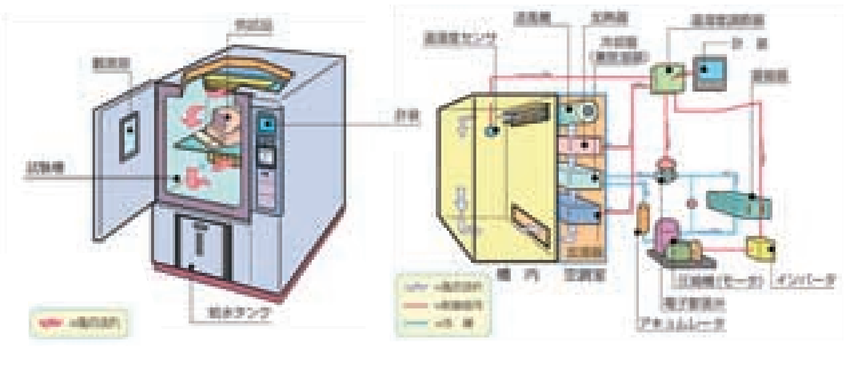

材質マーキングの例

### 冷媒フロンへの取組み

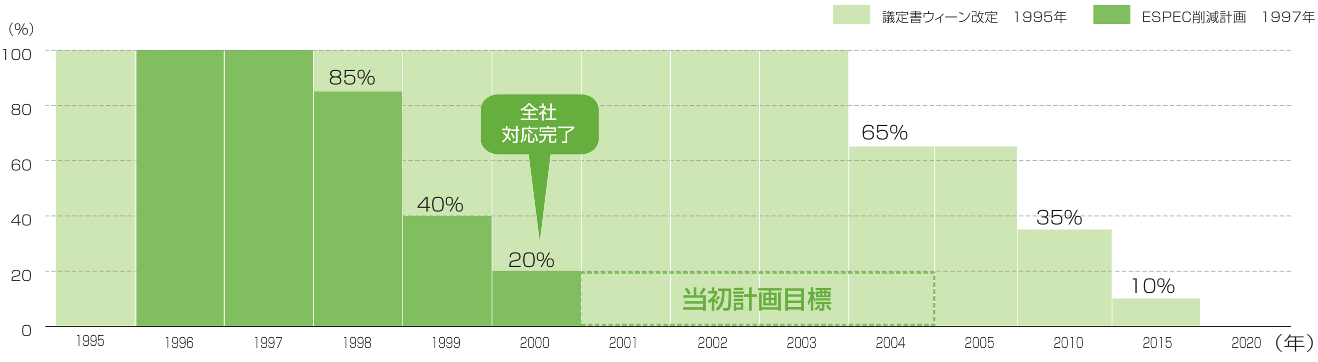
エスペックでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、2000年秋、当社製品の冷凍回路のHFC転換を完了させています。

■エスペック主力製品の構成

リサイクルに配慮した素材選びから、省エネのための制御技術まで
環境配慮開発設計ガイドラインを軸にさまざまな技術を導入しています。



■HFCフロンへの転換の推移



## 化学物質の適正使用

### 危険有害化学物質排除に向けての取組み

エスペックでは、製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2008年3月現在、当社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、自主的にRoHS対応部品への代替化を進めています。

### アスベスト対応

エスペックでは、過去の製品において、断熱材やパッキンの一部に、アスベストを使用していた時期があります。2007年までに、全ての製品において、アスベストの使用を取止めました。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報を公開しています。

### PRTR

エスペックでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています。（当社基準に基づく選定）。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準：1kg以上を集計単位として管理しています。また、お客さま先での作業に伴う化学物質の使用についても集計しています。

2007年度、法的報告義務である1t以上の取扱量になる事業所はありませんでした。

■2007年度　全社PRTR実績

| | 事業所内 (t) | | | （自主測定）事業所外 (t) | |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1種指定化学物質の名称 | HCFC-225 | トルエン | ヒドラジン | HCFC | CFC |
| 第1種指定化学物質の号番号 | 144 | 227 | 253 | | |
| 年間取扱量 | 0.13 | 0.41 | 0.03 | 2.73 | 0.371 |
| 製品への含有分（自主測定項目） | — | — | — | 2.56 | 0.35 |
| リサイクル分（売却分）（自主測定項目） | — | — | — | — | — |
| 排出量 イ）大気への年間排出量 | 0.13 | 0.41 | — | 0.02 | — |
| 排出量 ロ）公共用水域への年間排出量 | — | — | — | — | — |
| 排出量 ハ）当該事業所における土壌への排出 ニ）以外 | — | — | — | — | — |
| 排出量 ニ）当該事業所における埋立処分 | — | — | — | — | — |
| 移動量 イ）下水道への移動 | — | — | 0.03 | — | — |
| 移動量 ロ）当該事業所の外への移動 イ）以外 | — | — | — | 0.16 | 0.02 |

## 環境配慮製品

エスペックでは、製品を運転する際の電力使用が地球温暖化への影響が最も大きいとの考えから製品の消費電力削減を重要テーマと掲げて取組み、数々の省エネ製品を開発してきました。

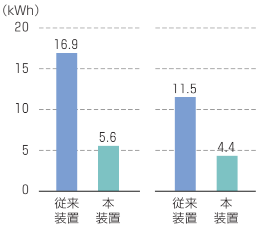
※以下の各数値は単位時間あたりの比較で、あくまでも参考値です。

### 恒温恒湿室 ビルドインチャンバー

従来比（機種平均）

■6型ACU30の場合

+85℃/85%rhの条件　−10℃の条件

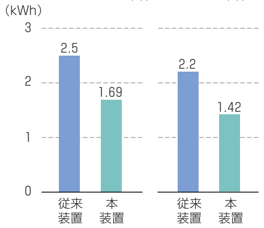



### 恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ

従来比（機種平均）

■PL-2Kの場合

+85℃/85%rhの条件　+20℃の条件

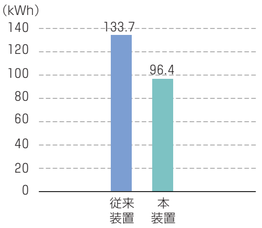



### 冷熱衝撃装置シリーズ

従来比（機種平均）

■TSD-100の場合

当社指定による条件

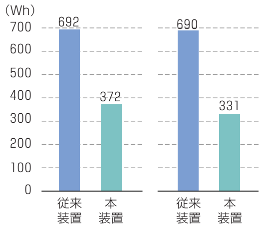



### 小型環境試験器シリーズ

従来比（機種平均）

■SH-241の場合

+85℃/85%rhの条件　+20℃の条件

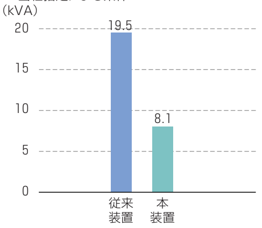



### 計測システムシリーズ

従来比

■AEM-2000（エレクトロマイグレーション評価システム）

当社指定による条件



# グリーンプロセス（環境に配慮した工程）

グリーンプロセスとは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮することを目的とした取組みです。
各拠点・部門で、自分たちにできることを主体的に考え、
環境負荷低減に向けたさまざまな取組みを推進しています。
そうした取組みの一つが、広域認定制度の認定取得。
これにより、お客さまから使用済みの製品を回収し、再資源化することが可能になりました。

## 営業での取組み

エスペックは、環境負荷の大きい工場はもちろん、営業所など全事業所で環境マネジメント活動を行っています。営業部門における環境マネジメント活動は、

- 環境に関するお客さまの声を積極的に聞き、製品・サービスに活かす（インプット）
- 環境に配慮した製品・サービスをお客さまに提供する（アウトプット）

であると考えています。エスペックは、環境に配慮した製品をお客さまへ提供することを通じ、お客さま先での環境への負荷の低減に努めています。グラフは、環境配慮製品の拡販実績と、これに伴うお客さま先での電力使用量の削減効果です。2007年度は、約11,100t相当の$CO_2$削減効果がありました。

## サービスでの取組み

### フロン回収

エスペックは、1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。フロン回収破壊法に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。

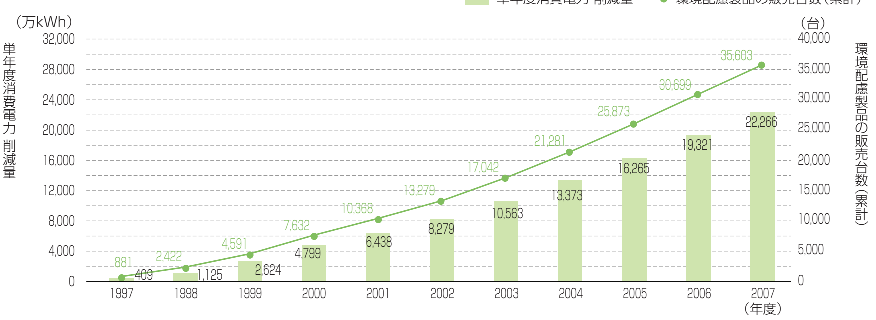
その回収量はお客さまのご理解も得られ、24t（2008年3月現在累計）にも及びます。

超低温領域である-70℃や-100℃を再現するには低沸点冷媒フロンが使用されています。この低沸点冷媒フロンについては、2002年3月「低沸点冷媒回収装置」を独自に開発。2002年度より各サービス拠点に配置し、低沸点冷媒の回収を行っています。

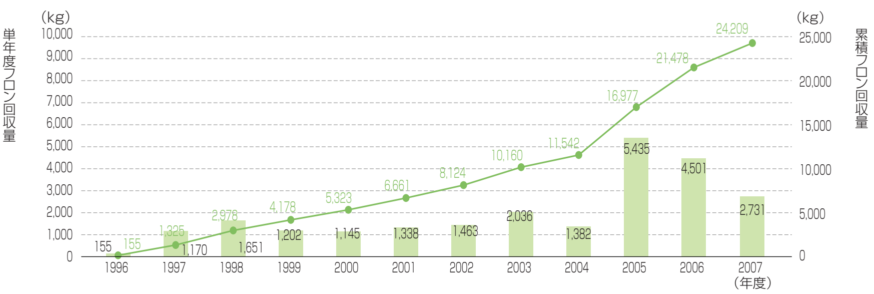
### 不要物回収

エスペックでは、お客さま先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。その回収量は717t（2008年3月現在累計）になります。

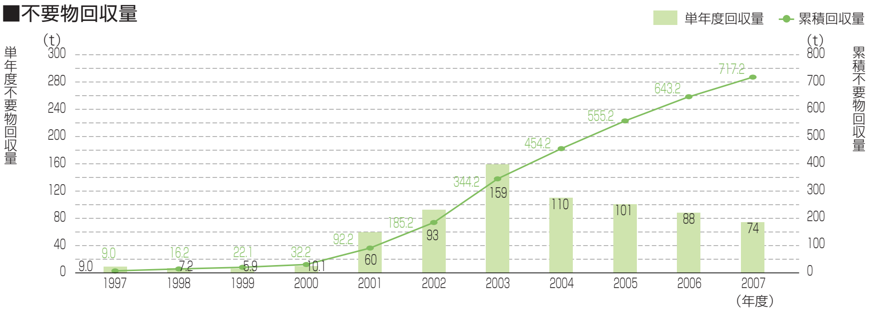
■お客さま先での製品消費電力削減量




■フロン回収量




■不要物回収量




## 物流での取組み

### 資材調達時の取組み

エスペックは、仕入先さまからの資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、仕入先さまと共同して、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、いったん社内で保管し、再使用しています。これらの取組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

### 製品輸送時の取組み

#### モーダルシフト

エスペックは、従来、国内においてトラックによる製品配送を行ってきましたが、地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト（鉄道輸送の活用）を始めています。2007年度は、貨物輸送の拠点である大阪を起点に、北海道、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。

採用に当たっては、梱包方法、輸送計画などを一から見直しました。関係各社のご協力のもと、これらの取組みを実施した結果、2007年度の1年間で約28t相当の$CO_2$排出量削減効果を得ることができました。

モーダルシフト

## ダンボール梱包

エスペックは製品をカバーする樹脂製袋の厚みを極限まで薄くしました。梱包材についても、木枠梱包を見直し、

- 重量物用ダンボール梱包の開発（特許2件公開中）
- 輸送業者との連携による裸（梱包なし）輸送

を実施しています。これらの取組みにより、森林資源の保護、有害物質の削減に努めています。

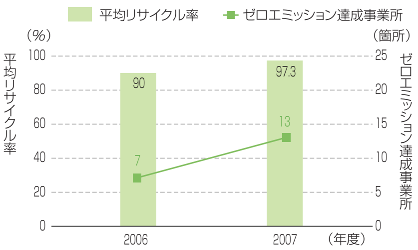
ダンボール梱包

# 事業所での取組み

### ゼロエミッションへの挑戦

エスペックでは自らの事業活動に伴い発生する廃棄物について、可能な限り再利用・再生利用を推進し、全事業所におけるゼロエミッション（リサイクル率98%以上）を目指しています。具体的な施策は大きく二つ。一つ目は分別廃棄の徹底です。ここでは、実際に発生する品目別に現物の写真とその処理方法を示す分別基準表を作成し、廃棄物収集エリアに掲示することで、関係する全ての従業員に教育をしています。二つ目は処理方法の選択。処理を委託する廃棄物処分業者については、よりリサイクル率の高い処理工程を有する廃棄物処理委託業者の選定を行っています。この結果、2008年3月現在、全31事業所のうち、約42%にあたる13事業所において、すでにゼロエミッションを達成しています。また、全事業所における平均リサイクル率は97.3%に達しています。

■平均リサイクル率とゼロエミッション達成事業所数の推移




### 事務用紙の削減活動

エスペックは、大切な森林資源を守るために、事務用紙の削減に取組んでいます。

2007年度は、使用済み用紙の裏面利用や縮小・両面コピーの定着、社内配布資料の配布先見直しと同時に、取扱説明書のCD-ROM化などを進めることで、事務用紙の購入量989万枚と、2006年度の1,030万枚から約41万枚削減することができました。

■事務用紙購入量

### グリーン購入の促進

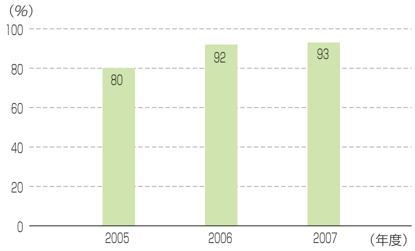
エスペックは事務用品だけでなく、OA機器、衛生用品などについてもグリーン購入を推進しています。

どこの事業所でも誰でも簡単にグリーン対応品が選択・購入できるように、社内の物品購入WEBシステムに、グリーン対応品コーナーを設けるなど行っています。

物品購入WEBシステム

2007年度は活動範囲を国内全ての31事業所に広げ、購入率93%と2006年度の92%から1ポイント向上することができました。

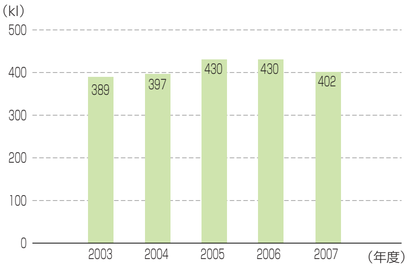
■グリーン購入比率の推移

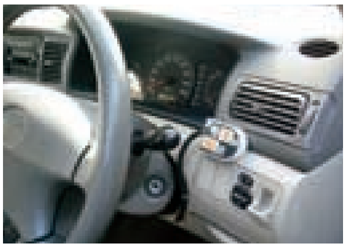



### 事業所のガソリン

営業車、サービスカーなど、社有車の使用に伴う$CO_2$の排出量は全体の約20%を占めています。2007年度は、公共交通機関の利用、ハイブリッド車など低燃費車への切り替えを順次進めるとともに、アイドリングストップ装置の導入など燃料の低減に努めています。社有車の総数216台に対し、ハイブリッドカーは19台、アイドリングストップ装置取付け車両は2台となり、今後も切り替えを進めていく予定です。また、車両のタイヤ圧をこまめに点検することでも、燃料の削減効果を得ることができました。こうした取組みの結果、ガソリン・軽油の総使用量は402klと、2006年度の430klから28kl削減することができました。（この値は、$CO_2$に換算すると約65t相当の改善に当たります。）

■社有車の燃料使用量



アイドリングストップ装置の
取り付けられた社有車

# TOPICS トピックス

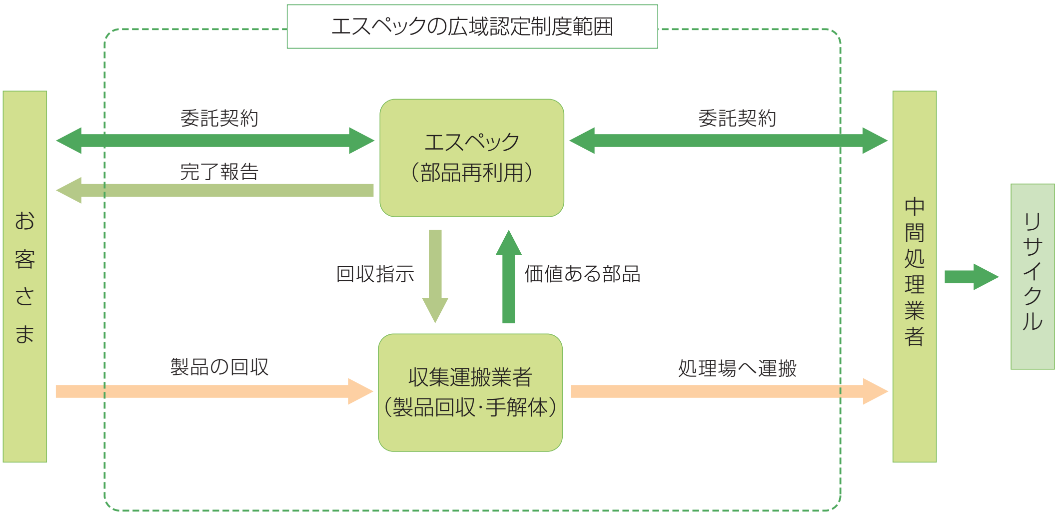
## エスペックは広域認定制度の認定を取得し、製品の回収サービスを始めました。

認定証

エスペックは、2007年7月3日に環境大臣より広域認定制度※の認定を取得しました。
2008年度より、資源循環を促進する取組みとして、環境試験器の「エスペック製品回収サービス」を開始します。

このサービスは、お客さまが使用済みとなった、エスペックの環境試験器を廃棄される際、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて、お客さまから製品を回収し、再資源化を行うものです。

(1) お客さまによる産業廃棄物収集運搬業者、産業廃棄物処分業者との「産業廃棄物処理委託契約」は不要となります。
(2) 処理が適正に行われた記録として、「産業廃棄物管理票」により完了報告をお届けします。
(3) 製造者が、製品の回収を行いますので、「廃棄物データシート（WDS）」の作成等不要です。
(4) 新製品の納入便を、廃棄品の回収便にする場合、運搬コストを抑えることができます。




※「広域認定制度」とは、製造事業者が広域的に自主回収および再生利用を行うことによって、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保に資すると認められる廃棄物の処理について、環境大臣が、その回収および処理の許可を認める制度です。

## Voice of the employee 社員メッセージ

### 広域認定の取組み

私たちの身の回りにはなんとたくさんのゴミが溢れていることでしょうか。家庭でも会社でも。「まだ使えるのに」と。
今の日本人は、「もったいない」という言葉を忘れてしまっているように感じます。
この「地球」という限られた星で生きる、私たちの未来のために、循環型社会の構築は、とても大切なテーマです。
私たちエスペックはメーカーとして、リデュース、リユース、リサイクルという優先順位を明確にし、製品の資源循環に取組んでいます。
この度開始した製品回収サービスは、循環型社会の実現への第一歩です。この活動を通じて、より多くのお客さまのご要望にお応えしていきたいと考えています。

環境管理部　EM推進グループ マネージャー　**大槻　浩**

# グリーンマインド（環境教育）

環境を守り、より良いものにしていくためには、従業員一人ひとりが環境のことをよく知り、環境を愛する心を持つことが重要です。
エスペックでは、自然に親しみながらその大切さを知り、守る心を育む環境教育を目指し、事業所内での植樹活動や、ビオトープの設置などを行っています。
また、環境啓発の一環として、環境ニュースの発行や環境大会などを実施しています。

## エスペック環境ウィーク

エスペックは、1997年以来、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定しています。

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的とし、全従業員、お取引さまならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わる各種取組みを行っています。

2007年度は、「環境改善提案」、「環境功労表彰（部門・個人）」、「環境写真コンテスト」、「環境ポスターコンテスト」等の各種表彰、地域清掃活動、観察会などを実施しました。（環境写真コンテストおよび環境ポスターコンテストにおける上位受賞者作品はP46に掲載しています。）

## 環境ニュース

エスペックは、従業員向けの環境啓発活動の一環として、環境ニュースを発行しています。ここでは主な環境関連行事や各事業所の環境管理活動の事例紹介などを行っています。最近の話題はやはり地球温暖化対策です。2007年度は特集として「温暖化防止アクション」を掲載しました。

環境ニュース

## エスペックの森

「エスペックの森」は、（財）国際生態学センター研究所所長（横浜国立大学名誉教授）宮脇　昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

2001年の神戸R&Dセンターでの植樹祭を皮切りに、2004年には松本営業所、2007年には豊田試験所での植樹祭と、全国各地でエスペック社員とその関係者の手による森づくりを通じた環境教育を実施しています。

これまでに延べ1,100人の手により、約31,000本の苗木を事業所敷地内に植樹しています。

神戸R&Dセンター植樹祭

神戸R&Dセンターの成長した森

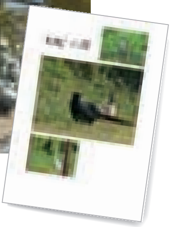
これらの取組みにより年間30t相当の$CO_2$を吸収することが期待されています。

また森づくりの新たな取組みとして、2007年度からは自治体（京都府）と協力し、地域の森林を保全する「京都モデルフォレスト」を開始しており、年間3t相当の$CO_2$の吸収が期待されています。

## ビオトープ

神戸R&Dセンター内にあるエスペックのビオトープ（生物生息空間）は、その土地本来の植物（在来種）を厳選して植栽しており、メダカが泳ぐ清らかなせせらぎには、トンボやゲンゴロウが飛来するなど、すでに神戸市本来の自然生態系が形づくられてきています。自然を「見て、触れて、感じる」ことにより、当社従業員や来訪者、近隣の子供たちが、自然との共生や環境保全について学ぶ場として活用していきたいと考えています。

エスペックのビオトープ



エスペックの森とビオトープに棲む野鳥パンフレット

## 環境大会

エスペックは、環境啓発の一環として、6月5日「環境の日」に、全社環境大会を開催することとしました。第1回となる2007年度の大会では、約100名の社員ならびに主要な取引先の方々の参加があり、エスペックの$CO_2$排出削減のための取組みについての発表と、外部講師による講演会を行いました。

全社環境大会

# グリーンアクション(社会貢献)

グリーンアクションとは、広く社外に向けて取組んでいる環境啓発活動・貢献活動のこと。
エスペックでは、太陽光発電のフィールドテストや環境フェスティバルの開催、
地元の子供たちへの環境教育などを行っています。
さらに、2007年度からはモデルフォレスト(森林保全活動)や、屋外広告の点灯時間の短縮など
新たな取組みも開始し、着実に成果に結びつけています。

## 新エネルギー・太陽光発電の研究

エスペックは、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)との共同事業を通じ、太陽光発電のフィールドテストを実施しています。1995年に宇都宮テクノコンプレックスへ40kW相当の太陽光発電施設を初めて設置して以来、2006年度には神戸R&Dセンター(50kW相当)と福知山工場(50kW相当)にそれぞれ新たに設置し、主要な生産拠点・研究拠点において太陽光発電の長期信頼性を研究するための基礎データの採取を実施しています。

2007年度は3拠点の太陽光発電により、約50tの$CO_2$を削減することができました。

福知山研修センター(福知山工場内)

神戸R&Dセンター

## フューチャーラボ(展示館)の運営

宇都宮テクノコンプレックスでは太陽光発電施設の隣に、「フューチャーラボ」(展示館)を設置。太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。

2007年度は490名、これまでに6,682名の多くの方々にご来場いただいています。

宇都宮テクノコンプレックスのソーラーパネルと展示館

## 環境フェスティバル

エスペックは自ら環境フェスティバルを開催するとともに地域の環境フェスティバルへも積極的に参加しています。毎年8月には宇都宮テクノコンプレックスで開催するほか、12月には京都府が主催する地域の環境フェスティバルへ燃料電池車などを出展しています。2007年度は約200名の来場者がありました。

環境フェスティバル(京都)

## ソーラーカー・ラリーへの参戦

クリーンエネルギーの太陽光発電。エスペックでは、秋田県大潟村ソーラースポーツラインで開催されるワールド・ソーラーカー・ラリーへの参戦を通じ、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行っています。

ワールド・ソーラーカー・ラリー

## 河川の生き物観察会

エスペックの福知山工場では2002年より毎年7月、天津公民館で行われる小学生を対象にした親子水質観察会に協力しています。COD簡易測定キットで水の汚れを測定したり、生物指標による水質の確認などを通して身近な環境を考えるお手伝いをしています。

天津公民館 水質検査

## グリーンカーテンレクチャー

2007年9月、地球温暖化防止や省エネに対する意識の向上を目的に、福知山市内の3つの小学校において、福知山環境会議との協賛でゴーヤを使ったグリーンカーテンの効果を実証する実験を行いました。この取組みには200名を超える先生・生徒のみなさんに参加していただきました。生徒たちは、自分たちで植えたゴーヤで教室の温度が3℃程度下がることがわかり、緑のカーテンが果たす役割の大きさを実感していました。

ゴーヤカーテン

## 京都府モデルフォレスト

エスペックは2007年、福知山市大江町毛原自治会と森林利用保全協定を結びました。京都府北部では初めての協定となり、「森林を核とした持続的な地域づくり」として自治体と共同して森林整備に取組んでいます。約2haの雑木林整備を通して美しい棚田を維持し、つつじの森を取り戻すための活動に貢献しています。

京都モデルフォレスト

## 家庭の環境マネジメント支援

2007年8月からスタートした「エスペック·エコ·チャレンジ·ファミリー制度」はエスペックの従業員およびそ家族の「環境活動（エコ·ライフ）」を支援する制度です。

2007年度は21の家族（第1期:16家族、第2期:5家族）がエントリーし、「エコ·ライフ」へチャレンジしました。エントリーした家族はまず現状のライフ·スタイルから環境負荷の実態を調査し、そこから、環境負荷低減目標（電力、ガス、灯油、水、ごみ、ガソリンの6項目）を設定。低減目標達成のために家族全員で「取組む内容」を話し合って決定します。そして、「取組みの実績」を「環境家計簿」に記録し、環境管理部へ定期的に報告します。

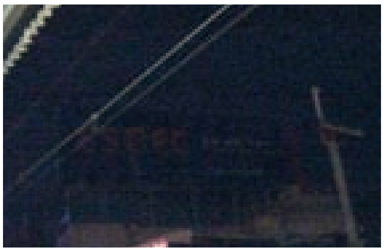
環境管理部は、各家族へ活動についてアドバイスするとともに、省エネタイプの家電製品買換などの希望に対し、「活動奨励金」として経済的に支援します。

第1期は16家族の6ヶ月間（2007年8月～2008年1月）の活動成果として、合計533kgの「温暖化ガス（$CO_2$）」を削減することができました。

## 広告点灯時間短縮

エスペックは、2007年6月24日に環境省主催の「ブラックイルミネーション2007」に参加しました。ここでは、JR品川駅（東京都）付近とJR塚口駅（大阪府）付近に設置した大型広告塔を夜8時以降消灯しました。また、両広告塔については、2008年4月1日から、夜9時以降の消灯を開始しました。年間では30t相当の$CO_2$排出量削減効果が見込まれています。

点灯時



消灯時

## 外部評価

### 日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」の受賞

2005年6月、エスペックは「第3回日本環境経営大賞環境経営優秀賞」を受賞しました。日本環境経営大賞とは、日本環境経営大賞表彰委員会および三重県が主催、環境省、経済産業省、財団法人社会経済生産性本部などが後援している表彰制度です。

この表彰制度では、環境経営のさらなる普及、発展を図り、「持続可能な社会」への転換を促進していくことを目的として、優れた成果をあげている企業やNPOなどの団体を顕彰しています。

授与式

### 環境経営度調査

エスペックは、日本経済新聞社主催の「2007年度環境経営度調査」で、86位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。今回は資源循環の促進、運営体制の強化などを積極的に行ったことにより、2006年度の154位から大きく順位をあげています。

■環境経営度調査実績

| 年　度 | ランク |
|---|---|
| 2003年度 | 37位 |
| 2004年度 | 94位 |
| 2005年度 | 67位 |
| 2006年度 | 154位 |
| 2007年度 | 86位 |

Voice of the employee | 社員メッセージ

## モデルフォレスト活動に参加して

この春に初めて森林保全活動に参加しました。
山仕事などはまったくの素人なのですが、孫と一緒に参加してみて、自分たちが間伐や枝打ちをすることで少しずつきれいになっていく雑木林を見ると、すがすがしい気分と、心地よい汗をかくことができ、有意義な一日を過ごすことができました。また、精一杯活動した後のバーベキューと冷たいビールは疲れた体に心地よく沁み込みましたが、代わりに筋肉痛のお土産が2日後に届きました。次回もぜひ参加したいと思っています。

機器生産部　スタンダード1グループ　リーダー　**川崎　慎二**

※中段左側のオレンジ色の帽子が私です

経営·マネジメント
社会性パフォーマンス
環境パフォーマンス

# 物質フロー

■2007年度実績

| INPUT | 事業活動の流れ | OUTPUT |
|---|---|---|
| エネルギー使用量: 89.4×10⁶MJ<br>(電気)838万kWh<br>(都市ガス)258千$m^3$<br>(重油・灯油・軽油・ガソリン)94kl | 開発設計 | |
| | 資材調達 | $CO_2$排出量 3,970t−$CO_2$ |
| HFC等購入量 12.7t<br>水使用量 83千$m^3$<br>包装材使用量 27t<br>事務用紙購入量 989万枚<br>資源投入量 4,250t | 生産 | HFC等排出量 781GWPt−$CO_2$<br>排水量 76千$m^3$<br>廃棄物最終処分量／総排出量 13.5t／543t |
| エネルギー使用量 車両燃料 631kl | 物流 | $CO_2$排出量 1,665t−$CO_2$<br>総出荷重量 3,700t |
| エネルギー使用量 電気 6,872万kWh ※2 | 製品の使用 | $CO_2$排出量 26,183t−$CO_2$ |
| エネルギー使用量 車両燃料 312kl | 保守・点検 | $CO_2$排出量 737t−$CO_2$ |
| ← | 再生ルート※1 | |
| | 製品廃棄 | |

※1:エスペックリサイクルシステム構築中（2008年度運用開始予定）

※2:製品の使用に伴うエネルギーの使用は2007年度環境配慮製品出荷分からの試算

| INPUT | 受託試験の流れ | OUTPUT |
|---|---|---|
| エネルギー使用量 電気 1,343万kWh | 受託試験（製品の使用） | $CO_2$排出量 5,115t−$CO_2$ |

■算出根拠

| 換算係数 | 原油換算(kl) | 熱量換算(kJ) | $CO_2$換算 |
|---|---|---|---|
| ①電力 | 1kWh=kl | 1kWh=10,250kJ | 1kWh=0.381kg−$CO_2$ |
| ②ガス | 10千$m^3$=10.2kl | 1kl=38,759,690kJ | 1$m^3$=2.15kg−$CO_2$ |
| ③石油 | 灯油×0.96 | 1kl=37,209,302kJ | 1kl=2.53t−$CO_2$ |
| ④ガソリン | | 1kl=37,209,302kJ | 1kl=2.36t−$CO_2$ |
| ⑤軽油 | | 1kl=37,209,302kJ | 1kl=2.64t−$CO_2$ |

# 実績データ

■サイト別データ（2007年度実績）

| | エスペック本社 | 福知山工場 | 宇都宮テクノコンプレックス | 神戸R&Dセンター | エスペックエンジニアリング本社 | 全国の営業所・ブランチ等25事業所合計 | 刈谷・横浜・豊田試験所合計 | ISO14001一括取得対象事業所合計（31サイト） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域区分 | 商業地域 | 工業専用地域 | 工業専用地域 | 準工業地域 | 準工業地域 | — | — | — |
| 主な業務・生産物 | 環境試験装置・電子デバイス装置の販売、開発、設計ならびに資材・部品の購買業務 | 環境試験装置・電子デバイス装置 | 電子デバイス装置 | 技術開発拠点および受託試験 | 環境試験装置・電子デバイス装置等のメンテナンス（点検・保守） | 環境試験装置・電子デバイス装置の販売、メンテナンス（点検・保守） | 受託試験、製品レンタル | — |
| 排出物の発生量（総量） | 21.5t | 389.8t | 12.4t | 18.8t | 10.5t | 87.6t | 2.9t | 543.5t※1 |
| 産業廃棄物量 | 0.0t | 134.6t | 10.4t | 9.8t | 8.4t | 66.2t | 1.0t | 230.4t |
| 事業系一般廃棄物量 | 21.5t | 78.5t | 1.9t | 1.6t | 2.2t | 19t | 1.9t | 126.6t |
| 電力 | 93万kWh | 386万kWh | 280万kWh | 321万kWh | 18万kWh | 71万kWh | 1,012万kWh | 2,182万kWh |
| 事務用紙購入量 | 288万枚 | 213万枚 | 28万枚 | 54万枚 | 27万枚 | 367万枚 | 12万枚 | 989万枚 |
| ガス使用量 | 42,396m³ | 155,039m³ | 0m³ | 57,548m³ | 31m³ | 3,280m³ | 5m³ | 258,299m³ |
| 社有車保有台数 | 15台 | 6台 | 11台 | 5台 | 15台 | 159台 | 5台 | 216台 |
| うち、ハイブリットカー | 3台 | 1台 | 1台 | 0台 | 1台 | 12台 | 1台 | 19台 |
| 燃料使用量（ガソリン） | 26.1kl | 65.3kl | 24.1kl | 6.0kl | 16.0kl | 227.9kl | 29.9kl | 395.3kl |
| 燃料使用量（軽油） | — | — | — | — | — | 6.6kl | — | 6.6kl |
| 走行距離 | 329,483km | 90,565km | 220,994km | 67,043km | 164,431km | 3,400,485km | 39,684km | 4,305,815km |
| 遵法への対応（騒音など） | 問題なし | 問題なし | 問題なし | 問題なし | 問題なし | 問題なし | 問題なし | 問題なし |
| 地域からのクレームなど | クレームなし | クレームなし | クレームなし | クレームなし | クレームなし | クレームなし | クレームなし | クレームなし |

※お客さま先での作業時発生分を含む。

# 環境会計

## ■2007年度環境会計

集計範囲:エスペック株式会社、エスペックエンジニアリング株式会社
対象期間:2007年4月1日～2008年3月31日

### ■環境保全コスト

（千円）

| 分類 | | 主な取組の内容 | 2006年度 | | 2007年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 投資額 | 費用額 | 投資額 | 費用額 |
| （1） | 生産･サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト （事業エリア内コスト） | | 65,430 | 69,881 | 7,927 | 60,815 |
| 内 訳 | ①公害防止コスト | | — | 2,706 | 483 | 1,817 |
| | ②地球環境保全コスト | 太陽光発電設備の設置 | 65,430 | 27,313 | 7,444 | 37,502 |
| | ③資源循環コスト | 廃棄物処分費用 | — | 39,861 | — | 21,497 |
| （2） | 生産･サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上･下流コスト） | | — | — | — | — |
| （3） | 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト） | ISO14001運用経費 | — | 73,861 | — | 81,780 |
| （4） | 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト） | 環境配慮製品の開発 | — | 388,384 | — | 596,360 |
| （5） | 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト） | | — | 24,040 | 11,205 | 40,999 |
| （6） | 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト） | | — | — | — | — |
| | 合計 | | 65,430 | 556,165 | 19,132 | 779,954 |

（千円）

| 項目 | 内容等 | 2006年度 | 2007年度 |
|---|---|---|---|
| 当該期間の投資額の総額 | | 584,264 | 747,814 |
| 当該期間の研究開発費の総額 | | 2,273,114 | 1,836,752 |

### ■環境保全対策に伴う経済効果

（千円）

| 効果の内容 | | 金額 |
|---|---|---|
| 収益 | リサイクルにより得られた収入額 | 10,817 |
| 費用削減 | 省エネルギーによる費用削減 | 750 |

### ■環境保全効果

| 効果の内容 | | 環境保全効果を表す指標 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 指標の分類 | 指標の値 | |
| （1） | 事業活動に投入する資源に関する効果 | 電力の使用 | 2006年度 | 2007年度 |
| | | 発生総量 （万kWh） | 843 | 838 |
| | | 削減量（対前年比）（万kWh） | （1.0） | 5.0 |
| | | 原単位（万kWh/億円） | 2.48 | 2.6 |
| | | 原単位での削減率（対前年比）（%） | 1% | −5.0% |
| （2） | 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果 | 廃棄物の排出 | 2006年度 | 2007年度 |
| | | 発生総量（t） | 20.3 | 13.5 |
| | | 削減量（対前年比）（t） | 6.7 | 6.8 |
| | | 原単位（kg/億円） | 59.6 | 41.9 |
| | | 原単位での削減率（対前年比）（%） | 27% | 29.7% |
| | | 売上高（単純合算）（億円） | 340.4 | 322.2 |

注1.（　）付きの値は増加分
注2.電力は、生産部門＋事務所電力の合計
注3.廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

## エスペック環境写真・ポスターコンテスト 2007年度 上位受賞者作品

エスペックでは、1997年より「エスペック環境強化週間」を設け、従業員などへの啓発活動を行っています。その一環として、2005年度からは環境写真・ポスターコンテストを実施。従業員はもとより、お取引先さまやそのご家族からもご応募いただいています。

### 環境写真部門　テーマ：地球温暖化

大賞　「氷河の涙」
株式会社精和工業所　山下 清一さん

優秀賞　「我が家の小さな緑のかべ」
中谷運輸機工株式会社
佐藤 憲一さん

優秀賞　「海と陸の境目」
エスペック株式会社
コアデバイスセンター
使いやすさ開発グループ
松隈 修さん

優秀賞　「ファイア」
相互電機株式会社
林 栄二さん

### 環境ポスター部門

テーマ：地球温暖化
資源循環
汚染の防止
自然の保護

大賞　「木を切らないで」
エスペックテストセンター株式会社　事業企画部
小寺 弘一さん ご家族

優秀賞　「自然保護」
オオヨド急運株式会社
田丸 公子さん

### 編集後記

環境マネジメントレポートとして7冊発行し、2005年から本誌がCSRレポートとなって、今回で4冊目となります。今回のCSRレポートでは、エスペックが重点的に取組んでいるCSR活動を特集記事としてご紹介したほか、担当社員からのメッセージを掲載するなど、読者のみなさまにとって、より親しみやすく分かりやすいものになるよう努めました。
今後もみなさまからのご意見・ご要望に真摯に向き合い、一層の充実を図ってまいります。
みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちしております。

### お問合せ先


エスペック株式会社　経営企画室　IR・広報グループ・環境管理部
〒530-8550
大阪市北区天神橋3-5-6
電話:06-6358-4757　FAX:06-6358-3511
E-MAIL:csr@espec.co.jp



ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org　Cert no. SGS-COC-1508

© 1996 Forest Stewardship Council

**エスペック株式会社**

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel：06-6358-4741　Fax：06-6358-5500